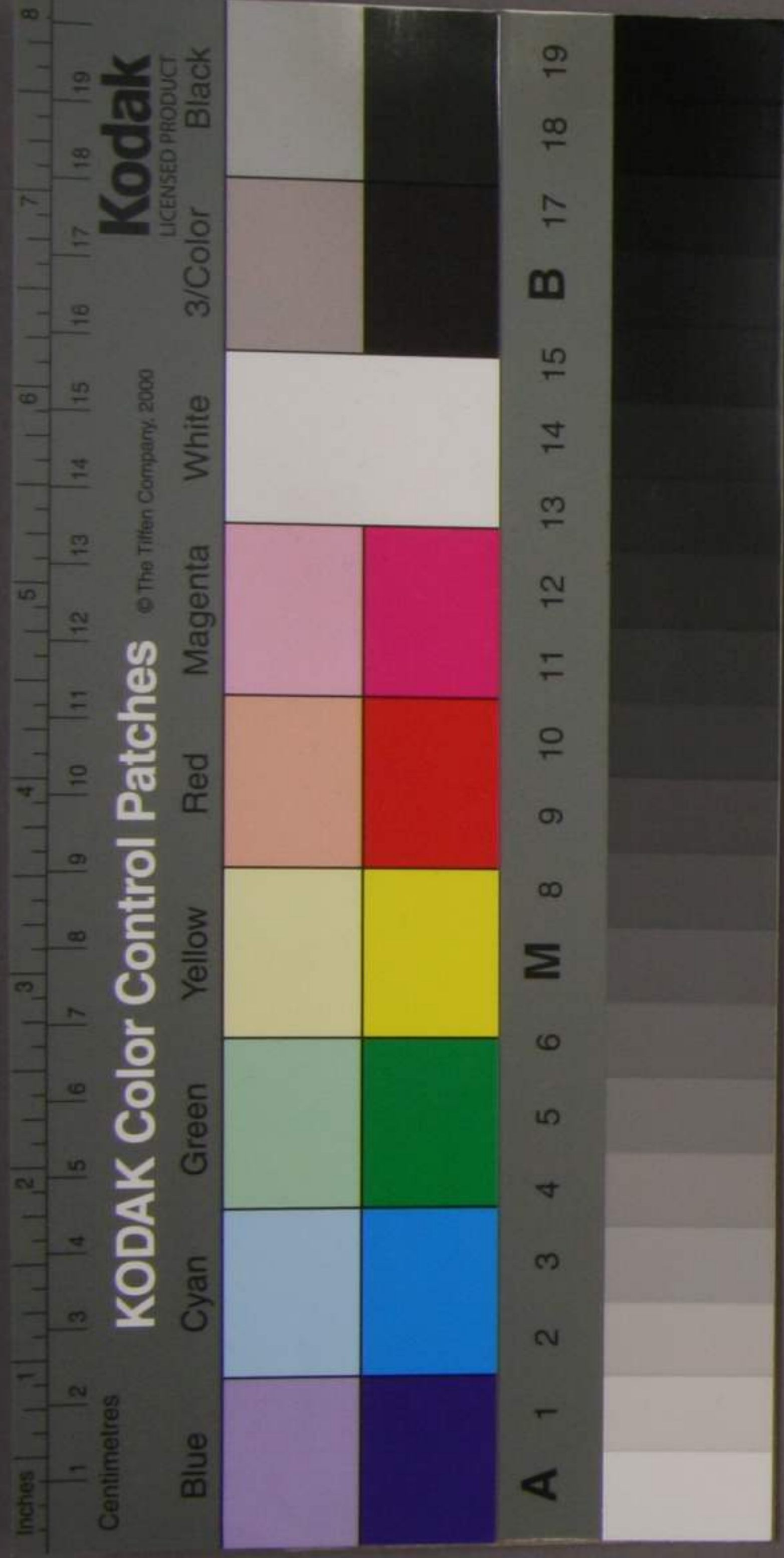




米國貨幣論

卷之四大尾



十九年十二月十一日 土曜

大正十一年四月
大隈侯爵邸書



ウヰツキ氏曰ク 余ハ今日ノ會ニ於テ我輩カ是迄論
シ来リシ所ノ事ニ付テノ談論ハ姑ラク擱過シテ現ニ眼前ニ發
出セシ事ニ注意センヲ欲ス貴下等ハ大統領「ランド」氏ガ貨
幣事件ニ付議院ニ送レル議案ノ文意ニ如何ナル見解ヲ下セシ
ヤ余ハ大藏卿「ブー」トウエル氏カ報告セシ所ノ文意トハ稍ヤ
往庭アルガ如クニ見認メタリ

○グループム曰ク 當週間ニ發兌セシ吾ガ「メルカン」タイトル
「ルナル」新聞紙ニ掲載セル貨幣説中ニ於テ我輩ハ大統領「グ
ラ」氏ノ議案ト大藏卿「ブー」トウエル氏ノ報告トニ付キ評論
シ且ツ余カ去ル九月下旬ニ「リチャルドソン」氏ノ注意アラン
ヲ乞ヒシ「ル」或ル法律ノ事ニ論及セリ。諸余ハ其時「九月下旬」ニ

於テ「リチャルドソン」氏ガ殆ント茫乎トシテ精神ヲ失スルニ至
ラントスル程ニ一々主点ヲ逐テ詳細明瞭ニ論述セリ而シテ同
伴ニ来リシ友人「ストロング」氏ガ貴下ニ向テ反顧熟慮セサレハ
君ノ説立チ難シト言ヒシ其折ハ就中貴下前後途ヲ失シタルカ
如クナリシ「リチャルドソン」氏ヨ此事ハ如何ニパハハハ
○リチャルドソン曰ク然リ其事アリタリ然レ氏是レ今日ニ
至リ再論スルヲ要セサル所ナリ然シ其事タルニ於テ余ハ豆下
ガ斯ク云フ程失敬アリ氏覺ヘス故ニ余ハ希望ス足下カ再ヒ之
ヲ舉ゲテ鳴ラサバランコトヲ

○グルーム曰ク余ハ吾ガ合衆國理財ノ件ニ付我輩ガ「ヂユー
ルナル」新聞紙上ニ掲載セシ所ノ數章ヲ取りテ之ヲ讀ムベシ
吾ガ合衆國大統領并ニ大藏卿ハ共ニ通用紙幣及ヒ五年ヨリ
短ナラス二十年ヨリ長カラサル期限ノ公債證書ニ關セル國

法ニ通曉スルモノニアラサルヤ明々瞭々タリ

我輩カ斯ク論議セシ言ノ決シテ其當ヲ失ナハサルヲ証明セ
シカ為メニ左ニ國法中ノ一條ヲ抜抄シテ之レヲ舉示スヘシ
看客氣ヲ此ニ注意アラシコトヲ

一千八百六十二年七月十一日議定ノ合法紙幣條例第一款
ニ云ク合法紙幣(即チ綠裏紙幣)ハ合衆國政府募集ノ諸公債
(即チ「ボンス」ノーツ「セル」チフ「キ」ト「オ」フ「デ」ツ「セル」チフ
「ケ」ート「オ」フ「デ」ボ「ジ」ツト以上公債ノ名稱諸運上「イン」トルナル、
「チ」目「稅」國產稅等(但シ輸入稅并ニ公債証書ノ利息ヲ除キ)
ニ支障ナク一般ニ取引スヘシ

國立銀行條例第二十三款ニ於テ故サラニ設ケタル「此紙幣
ハ合衆國內何レノ地方ニ於テモ其本價ヲ以テ租稅運上、地
代其他合衆國政府ヘノ諸上納トシテ受取ルヘシ但シ之

ヲ轉入税ニ用フルヲ許サス又タ合衆國政府ヨリ諸給料及
ヒ合衆國內ノ何レノ人何レノ「會社ノニ」一稱ゴルポレーンヨシ
拂フヘキ諸拂方ニモ亦此紙幣ヲ用フベシ但シ公債證書ノ
利息ハ此例ニ準スルヲ得ズトノ條ニ由テ觀ルキハ國立銀
行紙幣モ亦或ル格段ナル目的ニハ合法貨幣タルベシ
五年ヨリ短ナラス二十年ヨリ長ナラザル期限ノ公債証書
ヲ正金ニテ償還スル「ニ」ニ付キ最後ノ會議ニ於ル議院ノ議
決ニ付テハ特トニ「下院ニ於テハ」一千八百六十九年三月十
二日及ヒ「上院ニ於テハ」三月十五日ニ議定セシ所ノ條例ニ
注意セサルヘカラス即チ該條例ヲ左ニ掲ク
政府ガ一般ノ債主ニ負フ所ノ諸債ノ償却法及ヒ該公債ヲ
募リタル所ノ法律ニ付民間ノ異議ヲ解キ且ツ之レヲ辨明
シテ政府旨意ノ存スル所ヲ誤解セザラシメンガ為メ合衆

國紙幣タル無利息公債ニ利付公債ヲ正金ニテ償還セン
「ト」ト約ス但シ斯ル公債證書發行ヲ准許セシ所ノ法律中之
レヲ合法貨幣印チ金銀貨ニアラザル他ノ貨幣ヲ以テ償還
スル「ト」アルベシトノ明文アル場合ニ在リテハ此限ニアラ
ス然リト雖モ若シ右利付諸公債其期限前ニ於テ償還スル
「ト」ナシ但シ「政府ノ都合ニヨリ」之レヲ期限前ニ償還セント
スルキハ持者ノ望ミニ任スヘシ又前公債證書ヨリ低利付
キノ公債證書ヲ其証書面同價ニテ人民ノ買收スルアルキ
ハ前公債ヲ期限前ニ償還スル「ト」アルベシ而シテ合衆國政
府ハ成ルヘキ丈ケ速カニ正金ニ交換スルノ法畧ヲ設クヘ
キ「ト」ト約ス

右ニ述ル所ノ合衆國諸債償却云々ノ為メニ人民ヲシテ注意
ノ存スル所ヲ誤解セザラシメンカ為メニセル議院ノ決議ヲ

異ニスルアルガ故ニ諸般ノ取引ニ於テ已ムヲ得ス商人
賭博ニ類スルニ至レハナリ

敢テ請フ足下等左ノ二條ニ付キ良法ヲ議定セン^一ヲ其第一
條ハ正金ヲ發行シテ以テ漸次ニ紙幣ヲ引換ユル^一第二條ハ
通用紙幣ノ價常ニ高低スルノ弊ヲ矯正セン事但シ第一條ノ
方法ハ經濟學ニ於テ懇切ニ其得失ヲ論スル所アレハ敢テ茲
ニ贅論セス然レ^一第二條ノ方法ニ至テハ自ラ余ノ所見アリ
則チ政府税金ヲ收ムルニ方リ必ス紙幣ノ定價ヲ以テ受取り
其價格正金同等ニ騰ルマテ之レヲ國庫ニ貯積スル方ナリ然
カスル^一我カ邦ノ開否ニ關セス内地ノ物産特ニ富饒ナレ
ハ為メニ萬國ノ信ヲ得之レト時ヲ差ヘス既往六ケ年間ニ負
擔セシメシヨリモ賦稅ヲ減スルニ至ルヘシ

大藏卿ブ^一トウエル氏ノ說ニテハ三拾年期限ノ公債證書ニ

年四分半ノ利ヲ付シ而シニ其期限ニ滿タハ必ス正金ヲ以テ
仕拂フ可キ^一確實ナランニハ其証書面ノ價ニテ之レヲ民間
ニ賣捌クヲ得ヘ^一ト思フニ其所見或ハ妄想ニ類スル所アリ
何トナレハ十年ヨリ短ナラス四十年ヨリ長カラザル期限ノ
公債証書ハ正金拂ニシテ且ツ其利子年五分ナリ然レ^一當時
英國龍動府ノ相場ハ纔カニハ十一^一ドルラルナリ是レヲ以テ
之レヲ推セハブ^一トウエル氏ノ說ノ虛ナルヲ証スルニ足レ
リ然レ^一氏ノ報告書中ニハ堅ク已レノ所見ヲ主張センカ為
メニ歷々之レヲ例証シタリ是レ又益スル所アレハ則チ其書
中ヨリ之ヲ抄出シテ以テ茲ニ示ス

今マ余ガ論スル所ノ趣意ハ我カ五年ヨリ短ナラス二十年ヨ
リ長カラサル利付キ公債証書ノ過半ハ外國商人銀行者及ヒ
製造家ノ手中ニ歸スレハ之レヲ正金拂ニ復セントスル^一案

ノ得タルモノニアラスト謂フニ在リ曩ニ我カ政府ノ公債証書ヲ發行セシヤ其性質ニ付テ疑惑スル所アルヲ以テ永々之レヲ一種ノ家産ト看做シテ所有スル者ナシ是ヲ以テ内外諸大抵之レヲ投機ノ目的ヲ以テ買収シ何時ニテモ其價騰貴フルノ勢ヒアルカ或ハ國家財務ノ切迫ニ因リ債ヲ募リ公債證書ノ價卒カニ變動スルアル片ハ争テ之レヲ市場ニ販賣セント欲スルナリ

當時歐洲ニ我カ公債証書ノ散在スルモノ七億ヨリ九億迄ノ間ナリ而シテ斯ノ巨額ノ証書大抵彼ノ投機者流ノ手ニ歸セシガ故前述ノ如キ景況アル片ハ卒カニ其相場變シ人々販賣ノ趣頗ル煩忙ナリシ

一千八百六十六年奧地利ト普魯士トノ間ニ葛藤ヲ生シ竟ニ戦端ヲ開クニ方リ全歐ノ諸國之レカ為メニ騷擾シ我カ合衆

國ノ公債証書ヲ齎シ米國ニ渡航スル者接踵スルニ依リ其額極メテ多數ニ至リシカバ銀行ハ兌換ノ為メニ殆ト閑店ナルニ至レリ

余竊ニ以テラク五年ヨリ短ナラス二十年ヨリ長カラサル公債証書ハ其數特ニ過剩ナル所アレハ今マ其員數ヲ節減シ以テ新規ノ公債証書ヲ製シ再ヒ之レヲ發行スルニ若カサルナリト但シ此證書ハ特ニ信實ヲ旨トシ毫モ人民ノ疑惑ヲ招カサル様契約ヲ確實ニスルヲ以テ緊要トス然シテ其結約ヲ確實ニスルハ必シモ正金拂ニアラス思フニ國家ノ靜亂ニ拘ハラス人民ニ信任ヲ置カシムルハ唯紙幣ノ數ヲ省減スルニ在ルノニ是レ余ガ只管大藏卿ノ權内ニ時宜ヲ見計ヒ或ル一ヶ月内ニ凡ソ二百万ドルヲ以テ程ノ紙幣ヲ省減センヲ懇望スル所以ナリ蓋シ豫メ斯ノ目的ヲ立テ置ク片ハ他日已ムヲ得

ナル場合アルニ臨ミ一時ニ紙幣引換ノ舉ヲ行フニ容易ナル
而シテナラス國民ハ更ニ金融ノ困厄ニ罹ル者ナク漸々正金の
ノ地位ニ歩ヲ進ムルノ方便ナリ

紙幣引換ノ如キハ政略上ノ法制ヲ以テ之レヲ左右スルヲ克
ハス何トナレハ其原因タル全ク内外ノ貿易上ニ於ケル如ク
理財上ノ都合ハ外國ニ關係アレハナリ然レモ諸般ノ製造及
ヒ時務ノ如キハ其得失固ヨリ政略上ニ關係ナシト云フ可カ
ラス往々日戦亂ノ為メニ國家ノ富ヲ減却シ南方ノ諸國為メニ
貧困ニ陥レリ是ヲ以テ正金拂ヲ恢復センニハ先ツ南北ノ人
民ヲシテ産業ヲ興起シ諸產物ヲ内地ニ増殖シ以テ内外ノ輸
出入ヲ平均セシムルニアリ蓋シ邦國ノ輸出以テ輸入ヲ償フ
ニ足ラスシテ公債証書或ハ他ノ證書類ヲ以テスル間ハ假令
ヒ正金ヲ恢復スルモ到底維持シ難カルベシ業ニ既ニ内外ノ

輸出入相平均スルニ至ラハ外國人ノ手中ニ歸セシ公債証書
ヲ仕拂フノ外最早輸入品ノ為メニ毫モ我カ正金ヲ費サズル
可シ是ニ至ルハ自カラ信ヲ歐洲ノ諸國ニ得更ニ債ヲ募ル
ヲアルモ容易ニ之レニ應スルモノアリ且ツ方今銀行及ヒ諸
商人ノ所有スル我カ公債証書ハ自ラ債主ノ手ニ移リ永ク一
種ノ家産ト認メラル、ノ有様ニ至ラン然ルハ假令ヒ英國
一朝理財ノ厄運ニ會スルアルモ之レカ為メ卒カニ公債証書
ヲ我カ國ニ致シ以テ引換ヲ乞フガ如キ憂ヒ自ラ減却スヘシ
殊ニ内外ノ輸出入正ニ平均ニ歸スルノ慶福アラハ公債ノ如
クニ拘ハラス紙幣引換ノ如キハ恐ラク阻格スル所ナケレハ
又人民ノ家業ヲ妨クルナク容易ニ其實效ヲ收ムベキナリ
○リチャルドソン曰ク 余ハ今マ足下ガ讀ミ聞カセタル所ノ
一ニ付質問セント欲スルモノ種々アリト雖モ余ハ之レヲ記憶

シテ忘却セサルベケレバ姑ラク之レヲ他日ニ譲リ足下ヲシテ
ソレゾウキ氏ニ希望セラレシ所ノ論談ニ進マシメン
○グルーム曰ク 余ハ貴下ノ言ヲ以テ最モ至當ナリトスルガ
故 先ツ此論談ニ進ムベシ 儲テ余ハ當週間發兌ノ吾ガメルカ
ンタイトルデユールナル新聞紙中ヨリ今我輩ガ論ゼント欲スル
所ノ趣旨ニ直接ノ關係ヲ有セル所ノ一篇ヲ摘取シテ之レヲ貴
下等ニ讀示スヘシ

偶然ノ尊像

世間々金銀貨ヲ以テ取引上不便ノ品トナスモノアリ然リト
雖モ萬人一致此說ヲ排斥シテ容レス金銀貨ヲ以テ取引上無
上品ト尊信スルモノハ他ナシ其胸中既ニ一箇ノ偏見盤結ス
レハナリ

現今有識ノ士稍々斯ノ如キ古來ノ妄說ヲ曉り頗ル之レヲ痛

九

論セシヲ以テ往々民間ノ惑ヲ解キ新說ノ以テ人目ヲ警醒ス
ルニ足ル者アリ蓋シ其要旨トスル所他ナシ只偏見ヲ棄テ真
理ヲ求ムルニ在ルノミ

然ルニ何ンカ故ニ今世ノ諸事業ニ關シ至緊要件ナル須臾モ
忽諸スヘカラサル通貨ノ制ニ付國民タルモノハ貧富老幼男
女ヲ問ハス其利害得失ヲ議セサルヤ尤來國債ハ其内國人民
一般ノ負擔スヘキモノナレハ此上ニモ我ガ合衆國ノ公債證
書外人ノ手ニ落チ而シテ後理財ノ困難益々甚シク其償却ニ艱
スル場合ニ至ラハ内人ハ其至貧至富ヲ問ハス多少其負擔ヲ
乞カレザルナリ

正金論者曰ク貨幣ハ貿易上賣買取引ヲ便ニスルノ働ヲ有ス
ト其言實ニ然リ然シテ今マ紙幣モ亦其効用ヲ異ニセサルベ
レ值々諸金屬ノ貨幣ヲ視ルニ他ノ諸物品ニ於ケル如ク日々

其相場ヲ變スル所アレハ貨幣ハ決シテ固有ノ價アル者ニア
ニナルヲ証明スルニ足レリ凡テ地球上物品ノ稱呼アル者ハ
大抵提携ニ便ナラサルヲ以テ諸取引上暫ク貨幣ヲ藉テ之レ
ヲ抵當品ト認ムルモノニシテ貨幣ノ用ハ恰モ取引上ノ媒介
タルヲ明ラカサレハ今マ之レヲ放テ紙幣ニ其職分ヲ司ラシ
ムルモ何ソ賣買取引上ニ妨クル所アラシヤ

農商ノ輩商賣ニ於テ互ニ手形ヲ取引スル者ハ他ナシ只タ
手形振出し主ノ田宅賤物ノ類ヲ暗ニ抵當品ト認トメ以テ其
手形ヲ信任スルカ故ナリ此ノ理由ハ斯ク知リ易スケレハ官
民ノ間ニ授受スル紙幣モ亦嚴然タル政府ノ極印アレハ何ソ
農商ノ手形ト異ナルノ理アラン然ラハ一片ノ正金ト一葉ノ
紙幣トヲ以テ均シク「ドル」ト認ムルノ有様ハ決シテ前
ノ理由ト其趣異ナラサルベシ然ルニ世人ノ正金ヲ貴ヒ故サ

十

ラニ紙幣ヲ忌ム所以ノ者ハ殆ト解スヘカラサルナリ蓋シ正
金ト雖モ唯其極印ニ依テ價ヲ有ツノミナレハ畢竟世人ノ紙
幣ヲ忌ム者ハ因襲ノ然ラシムル所ニシテ自ラ謬妄ヲ悟ラサ
ルノ過チナリ

諸金屬ノ貨幣ナルモノハ政府ノ極印ニ均シキ實價ヲ有スル
ニアラス市場供需ノ多少ニ應シテ其價高低シ唯政府ガ貨幣
ヲ發行スル所ノ法律ニ基キ一片ノ金屬ニ自儘ノ價格ヲ極印
スルニ由ルノミ固ヨリ自然ノ實價ニ悖レルヲ明亮ナル可シ
既ニ斯ノ實況アルヲ顧レハ契約上ヨリ勝手ノ價ヲ紙片ニ付
シテ以テ貨幣ト認ムルニ於テ何ノ矛盾スル所アラシヤ現ニ
民間ノ取引上ヲ視ヨ凡ソ邦國ニ於テ物産ノ名アル者ヲ取扱
ハシニハ必ス手形或ハ切手ノ類ニ因藉シテ以テ之レヲ若干
ノ代用ニ充ツルノ常習アルヲ知ラン夫レ斯ノ如ク金銀貨ノ

ニ媒介ヲボメスレテ克ク物品ノ代理ヲ勤ムル者アリ然ル
ニ理財上ノ真理ヲ誤認セシヨリ竟ニ金銀貨ノミヲ以テ貿易
上ノ媒介ト定ムルカ故ニ一朝貨幣ヲ内國ニ亡フハ諸職業
之レカ為メニ困難ヲ免レサルナリ

回想スルニ上古物品交易ノ世ニ始テ貨幣ヲ用ヒシ頃ハ民間
恐クハ紛紜ヲ生シ其困迫殆ト現今紙幣ヲ以テ貨幣ニ代ユル
ノ有様ニ異ナニザリシナラン何トナレハ僅カニ一金塊ノ貨
幣ヲ以テ數百駄ノ穀物或ハ財物ニ交換スルガ故ニ人情自ラ
之レヲ吝惜シテ交換ヲ厭フノ景況恰モ目下紙幣ノ貨幣ニ於
ケル如クナルベゲレバナリ蓋シ草昧ノ世ハ概テ斯ノ情狀ヲ
免レスト雖モ後世稍々文明ノ風化ニ從ヒ人民自ラ妄見ヲ悟
リ漸々野蠻ノ性情ヲ脱スルハ旧弊日々ニ減シ諸般ノ家業
ニ於テ各々迂拙ノ所業ヲ愧ツルニ至ラン此ニ於テ邦國ハ生

賤ノ道興リ坐口ニ太平ノ象ヲ目撃センコト必セリ

余ハ貴下等ガ特ニ注意アラントヲ要スル所ノ吾ガ社説ヲ已ニ
讀ミ終リタレハ今ヨリ余ハ數度約束セシ如ク再ヒ貴下等ニ合
衆國理財ノ妙法ニ付キテノ我ガ見込ヲ簡畧ニ説明センコトニ進
ムベシ余以為ラク國內通用紙幣ト政府發行ノ定利付キ公債証
書トノ間ニ持者ノ所好ニ任セテ相互交換ノ法ヲ設クルニ於テ
ハ恰カモ彼ノ蒸氣機關ノ運轉カ其穩行球ニヨリテ支配セラル
、ガ如ク十分ニ理財及ヒ通商ノ運動ヲ規則立ツベキ完全ノ大
本ヲ致シ随テ斯ル紙幣(ペーブル、モニー、トークンス)ヲシテ之レ
ヲ金銀ニ比スレハ數層工位ナル完全無缺ノ價格尺度タルヘキ
ヤ確乎トシテ一点ノ疑ヲ置カザルナリ

余以為ラク貴下等ハ余ガ金或ハ他ノ商品ヲ通用貨幣トシテ使
用スルハ方今時代ニ於テハ取ルニ足ラザル朦昧時世ノ餘風ニ

外ナラスト断言スルヲ以テ狂妄ト思考スルナラン然ルニ今
日ノ人民ガ金ノミヲ貨幣トシ此レノミニテハ貨幣ノ用不
足ナルハ公衆ノ許ス所ナルヲ貨幣トシ使用セント欲スト雖
モ思慮ノ深カラサルヲ以テ到底之レカ為メニ膽ヲ寒スノ日
ハ遠キニアラザルベシト余ハ敢言ス然リ而シテ後千第キ九
百紀ノ歴史ヲ讀ムモノヲシテ何カ故ニ當時ノ如キ蒸氣其他
高尚ノ發明アル盛世ニシテ獨リ貨幣ノ事ニ至テハ斯ル野蠻
ノ想像ヲ有スルヤト怪詆止マサラシムルナラン

知ラス識ラス世上ノ慣習トナリタル所ヨリ金ヲ以テ辛苦勞
役ヨリ得タル一商品トナサスレテ一種珍重スベキ物品トシ
尊信スルハ之レヲ身躬カラ水石等ヲ以テ偶像ヲ彫刻シ崇テ
天神トシ自己ノ冥福ヲ祈ランカ為メ供物ヲ捧ケ尊敬禮拜ス
ル人々ノ所為ニ此スルニ其昏愚無智一層甚シト謂ハサルベ

カラス

我輩ハ今ニ於テ往古蒙昧時代ノ習慣誤謬ニ拘泥スベカラス
素ヨリ我輩ハ我輩ノ舉動ニ付キ質素朴野ヲ貴ムベシト雖モ
又專ラ進歩ヲ旨トヤザルベカラス我輩ハ今日ヨリ古昔ノ状
情ヲ回顧スルニ當時ノ愚痴暗昧實ニ驚愕ニ堪ヘサルナリ爰
ニ貴下等ノ注意ヲ乞フ所ノ一事アリ是レ余カ歷史上ニ於
テ閱見セシ一小瑣事タルニ過キスト雖モ余之レヲ貴下等ニ
讀ミ聞カセン

昆虫ノ裁判

中古ノ史ヲ閱スルニ日耳曼ノ郷邑ニ於テ風虫ヲ生シ農民
ノ田圃為メニ殘害ヲ蒙リ屢々收穀ヲ失ヘリ然ルニ防虫ノ
為メ年頃法律ノ設アルニ依リ農夫ハ勝手ニ之レヲ驅除ス
ル克ハス必ス其罪狀ヲ地方裁判所或ハ寺院ニ訴ヘテ允當

ノ裁判ヲ仰カサルヘカラス蓋シ今ヨリ古ノ有様ヲ視レハ
其蒙昧殆ト兒戲ニ類スル所アリ而シテ當時官民ノ間ニ行
ハル、説ニ凡ソ犯罪アル者ハ道理工ノ成否ニ關ラス必ス
其犯狀ヲ按シテ刑罰ヲ加ヘザルベカラズト云ヘリ

動物裁判ノ為メニ一科ノ法典ヲ制定セシ程ナレハ其頃紀
士ノ法學ニ志ス者ハ昆虫ノ擬律ニ係ル者ヲ研究シ學生ノ
為メニ之レヲ世上ニ頒布シタリ偕テ又昆虫吟味ノ節ハ大
小ノ種族ニ從テ各其方法ヲ區別シタリ若シ犯罪ノ動物ヲ
捕獲シタルハ直ニ之レヲ刑事課ヘ差シ出シ彈劾スルノ
制ナリ尤モ蝸牛螟蛉ノ如キ小醜ハ容易ニ人ノ捕獲シ難キ
者ナレハ云々ノ犯罪ニ係ル旨ヲ認メ之レヲ寺院ニ具狀ス
ルヲ常トス何トナレハ當世ノ民ハ寺院ノ高僧ヲ以テ天帝
ヨリ動物類ノ裁判權ヲ委任サレシト公認セシカ故ナリ偕

テ裁判ノ趣ヲ述ンニ損害ヲ蒙リシ原告人ト昆虫ノ為メニ
答辯ヲ許サレシ代言人トヲ訟庭ニ呼出シ明細ニ双方ヲ始
末ヲ紀シ之レヲ裁判シタルナリ而シテ后テ僧官ハ咒詛文
ノ如キ軀裁ヲ以テ昆虫ノ罰責書ヲ作り之レヲ讀ミ渡スナ
リ

有罪ノ昆虫裁判申渡ヲ受クレハ直ニ田圃ヲ退キ法律工ヨ
リ許可シタル避邑ニ散スト云ヘリ蓋シ其地方ハ赤々閑懇
セサルニ依リ農業ヲ妨クルノ患ナキナリ偕テ其命令書ニ
曰ク凡ソ我々人民社會ノ穀物ヲ害スル輩螟蛉蝸牛ノ如ハ
勿論有機軀ノ苟モ汚穢ナル者ハ速ニ田圃ヲ去リ民業ヲ妨
ケサル地方ニ赴クヘシト概子斯ノ例文ニ從フナリ然レモ
又妖魔ノ為メニ崇ラル、ノ恐レアレハ斯ノ命令書ヘ咒詛
文ヲ添ユル常習アリト云フ而シテ又其場合ニ依リテ嚴重

ナルキハ三時ヨリ短ナラス三日ヨリ長カラサル時限間ヲ
以テ昆虫ヲ退散ヲ命スルヲアリ尤モ有罪ノ昆虫ヲ法庭ニ
於テ要分スルノ以前ニハ豫メ懇切ニ規諫ヲ加ヘテ以テ自
然ニ退散ヲ勸ムルノ取扱アリ此時ニ臨ミ自ラ悔悟セサレ
ハ最早訟庭ニ於テハ過誤ヲ証シテ犯状ヲ免ルスヲ克クス
故ニ地方ノ傳令人ハ喇叭ヲ吹キ諫鼓ヲ鳴ラシ虫害アルノ
田畔ヲ巡回シテ克ク其趣意ヲ達シタリ

有機體ノ裁判法ハ凡ソ一千四百年ニ始マリ一千八百年ニ
漸ク其法ヲ廢絶セリト史傳ニ見ヘタリ茲ニ其頃蒼蠅ノ裁
判ニ係ル一話アリ則チ「マエンス」郷ニ蒼蠅ヲ生シ官人ノ采
地全ク斯ノ患ニ罹リ之レカ為メ損害ヲ受ケシカ故直ニ其
趣ヲ裁判所ヘ出訴シタリ然ルニ被告ハ尚知少ノ廉アルヲ
以テ裁判官ヨリ被告ヘ後見人及ヒ代言人ヲ差許シタリ之

レニ依テ被告代言人ハ直ニ訟庭ニ出テ其趣ヲ申理シテ曰
ク損害ノ件ハ原告申立ノ如ク其犯状ヲ免レスト雖モ我々
ノ所存ニ於テハ敢テ惡意ヲ挾テ原告人ノ所有地ヲ荒殘シ
タルニアラス唯タ目下ノ生活ニ苦ミ差當リ棲息ノ地ヲ求
メタルノミ然ラハ尔後相當ノ地ヲ賜ラハ重テ他人ヲ妨害
スルノ理ナシト云ヘリ此ニ於テ法官ハ熟ラ申立ノ趣ヲ審
理シテ竟ニ以來ハ一地ヲ與フル事ニ判決シタリ當時著作
家ノ説ニ「マエンス」近傍ノ民ハ昔日ノ如ク寄留地ヲ蒼蠅ニ
與ヘ契約面々分界ヨリ以外ヘ一モ侵入スルヲ許サス云
ヘリ

○リチャルドソン曰ク 余ハ是下ガ讀過セシ所ノ意ヲ悉ク了
解セリ然リト雖モ恐ラクハ是下ノ勞ハ全ク無益ニ屬セン假令
ヒ是下ノ貨幣制案ノ美ニシテ公衆ヲシテ悉ク之レニ信服セシ

ムルニ是ルモ之レヲ實際ニ施行セントスルニ之レヲ防遏スル
所ノ嚴然犯シ難キ憲法ノ在ル有テ政府ノ紙幣ヲ發行スルハ國
憲ノ禁ズル所ナルヲ如何セン

○グルーム曰ク 貴下ハ誤謬ニ陷リタリ現時發行ノ合法紙幣
ヲ以テ國憲ノ許ガ、ル所ノモノト想像スルハ惑ヒノ甚シモ
ノナリ國憲第一章第八節第五款ニ曰ク議院ハ貨幣ヲ鑄造シ内
外國貨幣ノ價格ヲ規則立テ并ニ尺度量衡ノ制ヲ定ムルノ權ヲ
有ス又同章第十節ニ因テ見レハ何レノ州ヲ論セス金銀貨ヲ除
クノ外他物ヲ以テ負債償却ノ貨幣トナスベカラスト

○リチャルドソン曰ク 余ハ既ニ是下ガ引証スル國憲ノケ条
ヲ數度閱覽セリ其意蓋シ單ニ金銀^貨ノ鑄造ヲ許スニ過ギサルナ
リ

○グルーム曰ク 其文タル決シテ貴下ノ取ル所ノ意ニアラス

是レ只タ貨幣ト記載シアルノミ

○リチャルドソン曰ク 然ラハ是下ハ「コイン」ノ字義ニ付如何
ノ解ヲ下スヤ其字義タル特ニ貴金屬ニ關係ヲ有セリ

○グルーム曰ク 余ハ^{「貨幣」}「コイン」ノ字義ニ付論スルヲ要セス余ハ
唯文章ノ全体ニ基キ其字ニ意解ヲ下スベシ議院ノ貨幣發行權
ニ關スル國憲ノ箇條ニハ文中一モ金銀ノ字ヲ掲載セラレタル
ヲ見ス故ニ余ハ断シテ其字義特ニ金銀ニ關係ヲ有ストノ説ヲ
主張シ傲然トシテ國憲ヲ制定セシ所ノ人等ノ意ハ必ス然リト
言ハレシ「リチャルドソン」氏ヨ貴下背後ノ机上ニ「ウエブス」
氏著述ノ字典アリ此字典ニ就テ「コイン」ナル字ノ解ヲ閲檢セヨ
○リチャルドソン曰ク 「コイン」ナル字義ニ付キテハ種々様々
ノ解アリ

第一 角或ハ端隅

第二 鑄

○グルーム曰ク 貴下ガ今讀ム所ノモノハ「ゴイン」ナル字ノ「名」辭トシテ用ユル時ノ解ナリ願クハ「動辭」トシテ用ユル時ノ解ヲ讀メ

○リチャルドソン曰ク 然リ余ハ大ニ其部ヲ過テリ然ラハ更ニ「動辭」ノ解ヲ讀マン

第一 一小片ノ金屬ニ極印シテ貨幣トナス。貨幣ヲ造ル。極印シテ製造スル

第二 製造スル。○創製スル。○成ス例ハ言辭ヲ新ニ組成スルノ類

○グルーム曰ク 諸貴下ハ其解ニ付キ如何ノ見解ヲ下セシヤ又貴下ハ國憲制定者カ「ゴイン」ナル文字ノ義ヲ十分ニ解シ得スレテ之レヲ用ヒシト想定スルヤ

○リチャルドソン曰ク 余ハ想定ス此文字ヲ用フル國憲制定

者ハ必ラス其義ヲ十分ニ了解セシト然リト雖氏余ニ於テハ「エブスト」氏ノ如キ大家ノ著述セシ字典中ニ下セシ字解ヲ十分ニ研究セサリシ過誤アレヲ隱匿スルヲナク宣白セザルベカラス余ハ實ニ今日該字典ヲ緒閱セザル前マデハ「ゴイン」ナル字義ヲ十分ニ解セシト自信セシガ故ニ合法貨幣條例ヲ讀ムニ當リ「ツ」コイン、モニ「ナル」一文ハ金屬ノ一片ニ極印シテ其實價ヲ明示スルノ外決シテ他ノ意ヲ表示スルニアラザルトシ此他ニ意味アリトハ夢ニダモ思量セサリキ

○グルーム曰ク 余ハ希望ス貴下ガ合法貨幣條例ノ國憲ニ通ヘルモノニ相違ナキヲ疑ハザランヲ

○リチャルドソン曰ク 余ハ未タ其然ルヲ十分ニ了認スルニ至ラス今後或ハ了認スルノ日アルモ知ルベカラスト雖モ余ハ此事ニ付キ尚更ニ十分ノ搜索ヲ逐ケザルベカラス余ハ之レヲ

知ル人民中ノ多數カ余ト其見ヲ同フスルヲ故ニ今日ニ於テ之レヲ決定スルヲ要セサレハ當分此論ヲ中止シ置カンヲ欲ス

○グルーム曰　人民ヲシテ完全無缺ノ通用貨幣(金銀兩貨)ノ如キハ決シテ完全無缺ノ貨幣ニアラスヲ得セシメンカ為メ余ガ希望スル所ノモノハ政府ヨリ紙幣ヲ發行シ之レヲシテ公私ヲ問ハズ諸取引上ノ合法貨幣タラシメ而シテ此發行ノ額數ヲ規則立ツルニハ持主ノ所好ニ任セ三六五(年)利付公債證書ト相互交換セシムルニ在リ斯ノ如クスルハ此紙幣ハ確乎不動ノ價格尺度トナルコ至ル其働キノ状恰モ蒸氣機關ノ穩行球ニ於ケルカ如クナルベシ

例ヘバ「グリーンベツキ」紙幣ノ供給ハ蒸氣ナリ大蔵卿ハ議院ヲ經人民ノ令ヲ受ケ働ク所ノ機關司ナリ而シテ我輩ガ主張スル所ノ貨幣制案ニ因ルハ大蔵卿ノ職ハ諸取引ノ為メニ合法紙幣ト制定サレタル「グリーンベツキ」紙幣(即チ蒸氣)ノ額ノ常ニ過不及ヲ監察スルノ外貨幣ノ事ヲ規則立ツル丈ケニテ他ニ為ス所アラザルベシ而シテ利息ノ割合即チ人民ノ所好ニ任セ常ニ合法紙幣ニ交換シ發售フル所ノ公債證書ノ利息ノ割合(即チ穩行球)ハ之レヲ議院ニ於テ定ム然リ而シテ此公債證書ハ又持主ノ所好ニ任セ紙幣ヲ以テ償却セラル斯ノ如クスルハ貿易ノ盛衰ニ拘ハラス年中大機關(即チ内國通商)ノ運轉ヲシテ間斷中止スルヲナカラシムルニ至ルベシ蓋シ公債證書ノ利息ノ割合ヲ高フスルハ通商ノ衰敗ヲ来タシ之レガ割合ヲ低フスルハ通商ノ繁盛ヲ致スベシ

○リチャルドソン曰ク　「グルーム氏ヨ余ハ二三週前ニ足下ガ紙幣ヲ以テ貿易上ノ要具トナスニ至リシハ今ヲ距ルヲ甚タ久

シカラスト語りシ^リアリシガ如クニ覺ユ是レ果シテ相違ナキ
カ

○グルーム曰ク 然リ余ハ其事ヲ語りシ何トナレハ今ヲ距ル
貳百年前迄ハ世ニ紙幣ノ何物タルヤヲ知ルモノアラザレバナ
リ

○リチャルドソン曰ク 「^リシンシンナチーコムメルシヤル新聞
紙中ニ支那香港ニ在ル同社ノ通信者が同國ノ事情ヲ報知セル
左ノ文ヲ載ス余ハ貴下ガ此文ニ注意アラシムヲ乞フ

國ノ内外ヲ問ハス 為換手形又ハ為換狀ノ手段ヲ以テ貿易ノ
便利ヲ謀リ及ヒ貨幣ノ融通ヲ助クルカ如キハ支那人ノ未タ
曾テ之レヲ歐洲ニ學ハザル所ナリ然ルニ該國ニ於テ古ヨリ
知ラス識ラス斯ル通商上ノ器具ヲ使用シ來レリ然レ氏之レ
ヲ保護スルノ道ヲ知ラス獨リ為換手形ノ裏書ノミヲ貴ンテ

期限及ヒ却收報告

^{為換法}
術語

等ノ規則ノ如キハ措テ不問ニ付セ

リ故ニ拂金ノ責任ヲ定ル

^{為換法}
術語

為メノ公討ノ手續キヲ要セ

サリキ○支那人ハ實貨

^{正金}
事

ヲ取引スル所ノ人民アリ故ニ其

通用貨幣ハ金屬ニシテ銀ヲ以テ其本位トシ為メニ墨銀ヲ以

テ一般通用ノ貨幣トセリ然リト雖モ量目ト銀質サヘ正シケ

レハ強チ墨銀ニ限ル^{ナク}如何ナル貨幣ニテモ銀塊ニテモ

取引上差支アル^{ナシ}借テ銀ハ貨幣ニ鑄造セルト否トヲ問

ハス通用貨幣タル氏金ニ至テハ然ラス恰モ一商品ニシテ其

價位常ニ不定ニシテ昂^定アリ○價格ノ尺度タル貨幣ノ多角

ハ^テリルナリ然レ氏英國^ハウインドステリングニ於ケル

如ク流通上其實一定形ノ本貨アルニアラス去レ氏之レヲ英

國ノ^ハウインドニ以スレハ稍^ハ便利ナリトス何トナレハ如何

ナル分數ニモ分割シテ之レヲ使用スル^ヲ得レハナリ

支那人ハ實貨ヲ取引スル所ノ人民タリトノ説ハ獨リ支那政
府ニ對シテ之レヲ言ヘハ實ニ其言ノ如シ然レモ人民ニ至ッ
テハ然ラス何トナレバ其民間ニハ米國ニ於テグリーンベツ
キ紙幣ノ民間ニ流通アル如ク為換手形ノ取引盛ニ行ナ
ハルレハナリ又銀行營業ノ國內ニ行ハルヤ日既ニ久レケ
レハナリ

支那國ニ銀行ノ營業業ニ紙幣發行ノ始メテ行ハレシハ耶蘇
隆誕前百十六年ニ在テ漢時ノ皇帝「ピーピー」ト稱スル紙幣ヲ
發行セリ此「ピーピー」紙幣ハ皇帝ノ周圍ニ養養スル白鹿ノ皮
ヲ以テ美々シク製造シタル國內通用券ニシテ一券ノ價凡ソ
洋銀六十「ドル」ニ當レリ然シテ此紙幣今ヲ距ル「一千年」
前述ハ該國一般ノ通用貨幣ニテアリキ斯ノ如ク支那國ニ於
テハ米國ヲ發見スル數百年前既ニ理財ノ道ノ開ケタルヲ見

ルハ實ニ驚クニ堪ヘタリ蓋シ米國ハ漸ク五十年以來此道ヲ
講究スルニ至リシニ過キス

紀元九百六十年ニ於テ有名ナル宋朝ノ創業者ハ割引及ヒ寄
托ノ官立銀行ヲ設立セリ而シテ條例ヲ製シ商人及ヒ財主カ
此銀行ニ貨幣及ヒ商品ヲ寄托スルヲ許シ之レニ代ヘテ「ピア
ンツヤント」稱スル預リ證書ヲ下ケ渡セリ此預リ證書ハ皇國
内一般流通スルヲ得テ人民間ニ貨幣ノ如ク差支ナク取引セ
ラレタリ

此割引及ヒ寄托ノ官立銀行ハ都合能ク百年以上連續シ而シ
テ其證書發行高ハ殆ト銀量三百万「ガンス」以上相當ニ達セリ
蓋シ當時ニ在ツテハ實ニ驚クベキ巨額ト云フヘシ
當時政府ノ設立セル銀行事業ノ都合能ク行ハルヲ見テ人
民ハ私立ノ銀行ヲ設立スルニ至レリ此私立銀行ニ於ルモ亦

官立銀行ノ如ク寄託金ヲ預リ之レニ代ヘテ「キヨオツト」ト稱
スル手形ヲ發行セリ此銀行タル我が自由銀行ノ主義ニ均シ
キ組織ナリ該銀行ノ支配人ハ國內屈指ノ豪家十六名ニシテ
其手形ハ威シニ國內ニ流通セリ然リト雖モ此銀行格外非常
ニ巨額ノ手形ヲ發行シテ之レニ對スルノ抵當不充分ナリシ
ヲ以テ終ヒニ破産ニ及ヒ為メニ諸民ノ大困難ヲ起スニ至レ
リ

此私立銀行管理方粗ニシテ其宜シキヲ得サリシヨリ國民ノ
大困苦ヲ蒙ムルヲルシガ故ニ皇帝ハ人民ガ通貨同様ニ流通
スル融通金券ヲ發行スルノ權理ヲ剝奪シ政府之レニ代リテ
其持權ヲ握リ「ウインチヤン」地名ニ於テ紙幣發行ノ銀行ヲ設立
シ此銀行ヨリ發行スル所ノ紙幣ヲ「キャレター」ト稱セリ此銀
行タルヤ合衆國ノ國立銀行ノ組立同様ニシテ其流通高ハ銀

量二百五十万「ガンズ」ニマテ上レリ

此銀行ヤ民間ニ尤モ便利ニシテ且ツ該銀行ヨリ發行スル所
ノ金券ハ帝國一般ニ差入ヘナク取引スルニ至リシガ為メニ
政府ハ一州内ニ一銀行ヲ設立シ之レヲ地方官ニ管轄セシメ
ハ其便益彌々大ナラント思考セリ但シ此銀行ハ合衆國ノ州
立銀行ノ組立同様ナリキ

此州立銀行ノ設立ヨリ一大不便ヲ釀成シ來レリ其故ハ該銀
行ハ州立ナルヲ以テ其發行スル所ノ紙幣ノ流通モ亦其一地
方ニ限り他州ニ流通スルヲ得サリシ

紀元一千百六十年ニ於テ非常ノ軍資ニ充シガ為メニ「コンミ
ッシヨ子ルオフレウエニユ」歳入理事官ニ命シテ租稅及ヒ關稅
ヲ抵當トシテ紙幣ヲ發行セシメタリ但シ此紙幣ハ國內一般
ノ上納ニ用ヒテ差支ヘナキモノニシテ即チ國內通用合法貨

幣ナリキ

六年ヲ経ル後此紙幣ノ發行高銀量四千四百万ニ及ヘリ然ルニ當時支那國內亂屢ク起リ合法紙幣其價格ヲ落シ物價益々騰貴スルニ至レリ

其後殆ント一万年即チ紀元一千二百八十七年ニ於テ蒙古人支那國ヲ攻メ代リ立テ皇帝タルニ及ヒ濫リニ紙幣ヲ發行シ為メニ殆ント無價ニ屬スルニ至レリ

滿清ノ朝ニ至リテハ初メヨリ蒙古人ノ轍ニ倣フナク正金通用ノ制ヲ立テ紙幣發行ヲ企テザリシカ如シ然リト雖モ尚ホ紙幣ノ流通アリ是レ銀鋪ヨリ發行スル所ニシテ現今專ラ支那民間ニ流通スルモノナリ

日本人モ亦錢札ト稱スル紙幣ヲ發行スルヲ茲ニ年アリ蓋シ其起初紀元一千三百二十年ノ頃ニ在リ而シテ此紙幣タル過

度ニ發行セザリレヲ以テ常ニ其信任ヲ保存セリ

亞西亞人ハ我輩ノ嘲笑スル所ニ係ルト雖モ未タ我カ米國ヲ發見セザル前歐洲將サニ開化ニ進マントスル時業既ニ紙幣ヲ發行シ經濟ノ道ヲ試ミタルモノナレバ今日ニ於テハ其開化及テ却步スト謂ハヤルヘケンヤ我ガ米國ニ於テハ漸ク現今經濟及ヒ理財ノ道ヲ講究スルニ至リシナレハ敢テ亞西亞ヲ嘲笑スベカラスシテ反テ其奇ニ驚カザルベカラス是ニ由テ之レヲ觀レハ天下又一ノ新造トナスヘキモノナシト云フモ敢テ不可ナハルベシ

○グルーム曰ク 自己ノ井甕ヲ以テ自カラ賢トシ我輩ヲ野蠻視スル一人種ナル支那國人ノ事ニ付キ貴下ハ我輩ノ注意センヲヲ希望セラレタリ就テハ此人種ノ事ニ付キ余カ一言セザルベカラザルヲアリ今貴下ガ朗讀セシ所ノ事ニ付キ談論センヲ

ハ暫ク之レヲ措キ余ガ一ヶ年前ニ吾ガメルカンマイルデユールナル新聞紙ニ掲載セシ支那國人ノ奇異ナル性質ヲ論スル一篇ニ付キ貴下ノ注意アラント欲ス此一篇ハ一千八百六十八年六月十八日發兌ノ新聞紙中ニ掲載セシ所ノモノナリ今余ハ之レヲ貴下ニ讀ニ聞カセン

支那人祖祭ノ事

支那人ハ此ノ世彼ノ世ノ説ヲ信ス蓋シ此ノ世トハ今日人ノ生活セル所ノ世ニシテ彼ノ世トハ人死シテ後住スル所ノ世ノ謂ヒナリ而シテ彼ノ世モ此世ニ異ナル所ナク工天子ヨリ下衙門ノ卑官ニ至ルマテ各々官吏アリテ人民ヲ支配スト想像セリ又彼ノ世ノ住民ノ人情行狀モ此ノ世ノ人民ニ於ケルト毫モ異ナル所ナケレハ死者ニハ必用品ハ勿論其他情意ヲ歡ハシムル所ノモノヲモ供セザルベカラズト想像ス然リト

雖モ彼ノ世ノ住民ハ其形影ヲ見ル能ハザレハ之レニ供スル物品モ亦形ヲ空漠ニ付シ以テ供セザルヘカラスト是レ支那人ノ死者ニ物品ヲ供スルニ當リ之レヲ燒燬スル所以ナリ支那人ハ又人ノ身體ニ三箇ノ魂ヲ有スルトノ説ヲ信シ一ハ頭上ニアリ一ハ心胸ニアリ一ハ體ノ下部ニアリトス而シテ此魂死後ニ至テ第一ノモノハ位牌中ニ留存ス(位牌ナルモノハ一片ノ木板ニシテ其表面ニ死者ノ名及ヒ誕辰没日ヲ記ス其裝飾貧富ニ從テ差等アリ)第二ノモノハ死骸ニ止マリ第三ノモノハ去テ彼ノ世ニ逝キ其訟庭ニ於テ生前ノ行狀ヲ糾問セラル而シテ死者ノ魂彼ノ世ニアルモ尚ホ此ノ世ニ住スル人ヲ見ルヲ得ベケレバ祭祀ヲ忽ニスル片ハ之レヲ罰シ祭祀ヲ嚴ニスル片ハ之レヲ賞ス故ニ之レヲ忽ニスルモノハ禍ヲ蒙リ之レヲ嚴ニスルモノハ福ヲ享ク

靈魂ハ「フレシユイ」之レヲ直譯スルハ風水ノ義ナリ然レモ
此二字ノ意味甚タ深長ナルガ故ニ其解ヲ後章ニ譲ルト共ニ
人ノ世ノ禍福ヲ司ルモノトス故ニ海工或ハ戦場ニ於テ死去シ
又ハ墳墓ノ所在分明ナラサルモノハ彼ノ世ニ於テ乞食トナ
リ其祭祀ヲナスベキ人ニ有ラザル所ノ此ノ世ノ人ニ崇タリ
ヲナスト想像セリ

彼ノ世ノ刑罰ハ此ノ世ノ刑罰ニ於ケルト異ナル所ナク又身
體ノ苦楚ヲ受クルモノト想像セリ然リト雖モ彼ノ世ノ刑官
ノ權力ハ此ノ世ノ刑官ノ權力ヨリ大ナル所アラザルガ故ニ
此ノ世ノ刑罰ヲ免カル、^一ヲ得ルガ如クニ彼ノ世ノ刑罰ヲ
モ亦免カル、^一ヲ得ルモノト想像セリ

斯ノ如キガ故ニ死者ノ祭祀ヲ行フノ目的ハ此ノ世ト彼ノ世
トノ住民間ノ親睦ヲ保タンカ為メナリ而シテ故國ヲ去リ遠

隔ノ都府ニ留寓スル支那ノ等ハ一箇ノウエイクワ^レ蓋^レ寺院ナ
ルモノヲ其地ニ設ケ本國ニ於テ死去セルモノ、靈魂ヲ祭レ
且ツ此外靈魂ヲ慰セ^レガ為メニスル所ノ種々ノ作法アリ
人若シ死去セシハ其曾テ生前ニ已レヲ害セシ所ノモノニ
怨恨ヲ報スルモノトセリ

人ノ此世ニ貴ム所ノモノハ住居ヲ美ニシ生活ヲ裕カニスル
ニ止マルガ故ニ死者ノ柩等ヲ美ニスルヲ以テ其靈魂ニ敬禮
ヲ盡スモノトセリ是ヲ以テ生前ニ豫メ自己ノ柩等ヲ備ヘ置
クモノ間々之レアリ

佛像ヲ以テ彼世ノ政府ニ代理官吏トシ之レヲ安置スルカ為
メニ寺院ヲ建設ス而シテ其主權者ノミ此寺院即チ衙門ヲ專
ラニシ属官ノ如キハ邏卒ノ如ク此世ノ人ニ害ヲ被ラシメン
^一欲シテ此世ニ漂泊スル所ノ遊魂ヲ視察シ且支配シ得ヘキ

所ノ夫々ノ守所ヲ護レリ然シテ是等ノ卑官人ハ賄賂ヲ受ク
ルモノトス故ニ人々其友死スルニ當レハ「デ」ヲ燒燬シ以
テ芭苴トシ死者カ彼ノ世ニ於テ法庭ニ呼出サレ高官ノ紀明
ヲ受ケ且ツ刑罰ニ就クノ苦ヲ免カレン「ト」ヲ卑官人ニ謀レリ
其「テ」井ナルモノハ彼ノ世ノ銀錢ニシテ薄紙ヲ以テ製スル
モノアリ或ハ銀紙ヲ以テ製スルアリ而シテ此銀紙ヲ以テ製
シタルモノ、中支那國內ノ或ル地方ニ於テハ舊「イ」ス「バ」ニヤ
貨幣ヲ押捺セルモノアリテ其價百枚ナセ「ト」ナリ

若シ一家族中病ニ罹ルモノアレハ同家族ノモノ家廟ニ供物
ヲ捧ケ且ツ禮ヲ行フ斯クスル所以ノモノハ其病因若シ祖先
ノ祭祀ヲ等閑ニスルヨリ来ルハ其怒ヲ慰センガ為メニシ
若シ游魂ノ所為ニ係ルハ祖先ノカヲ假リテ其恚鬼ヲ拂ハ
ンカ「ハ」メナリ然リ而シテ祖先ノ崇リナルカ游魂ノ崇リナレ

カヲ知り得ン為メニ「ジ」ユム我カ巫類ヲシテ之レヲ言ハシム

若シ祖先ノ崇リナルハ家廟前ニ於テ銀紙ヲ燒供シ若シ遊
魂ノ崇リナルハ之レヲ慰センカ為メニ戶外ニ於テ銀紙ヲ
燒供ス若シ病者讒語ヲ發シ若シクハ四肢厥冷スル「ア」ルハ
ハ病者ノ軀ニ存スル三魂中ノ一遊魂ノ為メニ捕虜トサル、
ト想像セリ故ニ一家族燈ヲ照ラシ戶外ニ立テ離散シタル魂
ニ對シ頻リニ名ヲ呼ビ痛ク歸來セヨト叫ヘリ○人死スルニ
當リテハ其靈魂彼ノ世ノ詔庭ニ捕縛セラル、モノト想像セ
リ○人死スルハ死者ノ最後ノ飲料トシテ戶外ニ冷水ヲ供
シ又一具ノ美服ヲ燒供ス是レ則チ死者ガ彼世ニテ法官ノ前
ニ出ルニ當リ其衣冠ヲ美ニスルハ此世ノ捕官ガ美服ノ犯
人ヲ取扱フニ寛大ヲ以テスルガ如ク彼ノ世ノ捕官之レヲ取
扱フニ寛大ヲ以テスル「ト」ト想像スレハナリ又死者ノ卧床ヲ

焼ク是レ死者カ彼世ニ於テ法庭ノ處罰ヲ免カル、トヲ得ル
ト否トヲ問ハス何レニシテモ安眠ノ快樂ヲ缺ク可カラザレ
ハナリ右ノ如ク死者ノ為メニ彼世ニテノ需用品ヲ供シ了リ
テ家族及ヒ親戚ノモノハ自己ノ軀ニ惡鬼ノ襲来セシヲ防
クノ用意ヲナス人死シテ九日目ヨリ十八日目迄ノ間ニ死者
ノ靈魂ハ浮浪ノ靈魂ヲシテ遺族ノモノニ崇リヲ致サシガ為
メニ一群ノ浮浪ノ靈魂ヲ伴フテ遺族ノ住家ニ歸リ来ルモノ
ト想像セリ故ニ遺族ノモノハ斯ル惡鬼ノ襲来ヲ防禦センガ
為メニ「ゾーイヌト」僧徒ヲシテ「グーニンチニ」禮拜ヲ行ナハシ
ム
僧徒寺ハ恰カモ此世ノ官吏ノ如ク常ニ富者ノ金ヲ貪リ取ル
ニ敏ニシテ其子段甚タ多シ
僧侶、神佛ニ代リ衆生ヲ濟度スルノ大權アシハ其心術ヲ星

スルハ恰モ官吏カ收歛ニ巧ナルト其趣ヲ異ニセサルナリ故
ニ方便ヲ以テ徭々民財ヲ貪ル處アリ何トナレハ其職現世ニ
於テ檀家ノ冥福ヲ祈リ加之来世ノ濟度ヲ司トレハナリ今マ
之レヲ一例シテ以テ其事情ヲ述シニ檀家ノ人死後ニ於テ或
ハ罪戾ニ掛リ苦界ニ陥ツテ未タ成佛ヲ遂ケサルハ佛徳ニ
依リ僧侶ハ其有様ヲ悟レルカ故直ニ其趣ヲ親族ニ告ルナリ
親族ノ者之レヲ聽テ卒ニ恐怖シ家ノ遺シテ寺僧ニ其委細
ヲ尋ヌルハ寺僧巧ニ之レニ答テ曰ク當時有罪人ハ深穴ニ
陥リ劍戟ニ支ラレテ頗ル慘刻ノ責ヲ受クレハ容易ニ彼レヲ
濟度スルノ道ナシ然レモ費用ヲ厭ハス假初ニモ三日間コン
グターヲ執行レタランニハ恐ラク斯ノ功德ヲ以テ彼ノ罪障
ヲ救フベシト此委細ヲ聽テ親族ノ者愈々哀憐ヲ起シ法會ノ
費額ハ幾許ナルヤヲ問フニ僧侶ハ暗ニ其人ノ家産ヲ計リ金

額ヲ要スルガ故若シ其一族ヲ富有ナル有ト視レハ通例一千
元程ノ金額ヲ差出スヘキ旨ヲ告クルナリ然ルニ其人財力ニ
克ハサルヲ以テ其譯ヲ申立ツルモ寺僧ハ其費額ヲ節減シ以
テ斯ル法會ヲ執行スル一克ハサルノ旨ヲ述ヘ更ニ許容スル
ノ色ナク只タ亡者ノ不幸ヲ嘆シテ曰ク斯ル親族アル有テ而
シテ靈魂ヲ慰メ冥福ヲ祈ラサル所ハ冥獄ニ於テ有罪人ハ常
ニ心慮ヲ安ンセス徒ニ追善人ノ功德ヲ景慕スルノミト斯ノ
如ク徐々ニ懇懇シテ以テ親族ノ心ヲ感セシムレハ竟ニ半額ヲ
捧テ法會ヲ行ハント請フ然ルニ寺僧ハ尚ホ之レヲ承諾セザ
ル依リ親族ハ再ヒ熟議ヲ遂ケ七百元ノ金額ヲ捧ゾルニ至
ル是ヲ於テ僧侶ハ其乞ヲ許シ而シテ豫メ其親族ニ告テ曰
ク法會ヲ行フ金額ハ未タ充分ナラサルガ故容シニ有罪人ヲ
濟度ハルノ功カラ得ルベシ

法會ニ執行スル期日 元ヲ家具ヲ除キ館内ノ掃ヒ帳幕ノ條
号ニハ冥府ノ機杯ヲ繡シテ之レヲ四方ニ張りテ幡蓋ノ類
ヲ具備スレハ其威儀恰モ殿堂ニ均シク莊嚴ナル有様ヲナセ
リ而シテ其中央ニ於テ高ク卓子ヲ設ケ其上段ニ亡者ノ位牌
ヲ置キ其界限ニ旁ヲタウエストノ僧徒各々法衣ヲ着シテ五
六人若クハ八九人肅然ト配列シ通番ヲ以テ念呪ノ法ヲ行フ
ナリ蓋シ斯ノ法會ヲ設クル間ハ一族ヲ會シ賓客ヲ招キ僧侶
ト共ニ飲食ヲ肆ニシ晝夜ヲ別タス樂ヲ奏シ鑼ヲ鳴ラシテ供
養ヲナセリ

第二日ノ午後ニ至リ教長ハ卒ニ震唱ヲ發シテ曰ク前約ノ如
ク納金セサルハ故冥府ノ權官ハ更ニ赦罪ノ慈心ヲ懷カサレ
ハ容易ニ亡者ハ苦界ヲ脱スル一克ハスト此言ヲ聽テ親族ノ
者益々怯怖シ若シ己ノ財力ヲ以テ金額ヲ取揃ヘ難キ所ハ百

方假借ヲ請フテ漸ク三百元ノ不足ヲ擡クルナリ是ニ於テ僧徒ハ一層精心ヲ凝セハ念呪ノ力愈急劇ニ赴ケリ此時親族ハ只タ亡者ノ不幸ヲ悔ミ潛然トシテ滿坐袖ヲ濡ス其ハ鈴聲ハ耳邊ニ鳴リ渡リ恍焉ト迷魂ヲ浮ムルノ有様ヲナセリ此ノ時宜ヲ視テ教長卒ニ驚擾ノ色ヲナシ一喝シテ曰ク亡者ハ既ニヤングカン冥府ト云ヨリ赦サル、ノ趣ナリト此ノ報知ヲ聞クヤ否ヤ親族ノ者ハ稍々愁眉ヲ舒ヘ贖罪金ノ利驗徒為ナラザルヲ欣ヒ各々安堵ノ思ヲナセルナリ

第三日ニ於テ教長ハ例ノ如ク冥府ノ景況ヲ述ヘテ曰ク亡者ハ殆ンと深窓ヲ脱セリ然レモ未タ彼岸ニ到ルノ力ナク只管ヲ償フニ足ラズナルヲ以テ冥獄ノ權官ハ全ク亡者ヲ赦サル處アリ然ルニ僧侶ヨリ強テ之レカ赦狀ヲ乞ノト克ハスト

ニ於テ親族ノ途方ニ至レ腕環指環珍寶ノ類ハ勿論諸般ノ家財ヲ典却シテ以テ供養費ニ充ツルナリ斯ク僧侶ハ飽マテ財寶ヲ貪リ最早其人ノ所有品ナキヲ知レハ則チ之レヲ結局ト定ムルヲ故僧徒ハ又前狀ニ均シク一場ノ念呪ヲ行ヒ日暮ニ至リ烈シク鐘ヲ鳴ラシ火箭ヲ散ラシテ全ク亡者ノ放免サレシヲ報告スルナリ蓋シ鐘及ヒ火箭ヲ用ル意ハ冥獄ヨリ放レル迷鬼ヲ驚破センカ為メナリ

此ノ景狀ヲ視テ親族ノ者殆メテ喜色ヲ現ハスナリ斯ク亡靈ヲ救ハシカ為メ一族ノ人心肝ヲ碎キ金錢ヲ擲ツコ夥多ナリ斯ル方便ヲ以テ僧侶ハ妄リニコンクターノ法會ヲ人民ニ諭シ宗族ニ於テハ暫モ忽ニスヘカラサル義務タルヲ智ラシメハ幾度モ此法會ヲ行ヒ財寶ヲ貪ル手段盡キサルヘシ「タトウスト」或ハ「ブライスト」ノ教法ニテコンクターノ法會

リ設クル所以ヲ辨セシニ支那ノ教ニ於テハ本ト亡者ヲ救フハ一時ノ姑息ニ止マレハ僧侶ハ妄リニ人民ヨリ冥加金ヲ貪ルト雖モ救テ死者ヲシテ永福ノ地ヲ占有セシメス只タ目前苦楚ヲ救フノニ熟ラタ支那ノ教法ヲ視ルニ西教ノ所謂ル天堂ナル者非サレハ善人ヲ保庇シテ以テ榮華ヲ與フルノ所ナシ蓋シ支那人ハ死後ニ於テ真神ノ監督ヲ受クルノ理ヲ知ラサレハ現世ニ於テ其福音ヲ傳ヘ其道理ヲ述フルナク只タ亡者ノ冥土ニ赴クヲ以テ鬼官ノ苛政ヲ蒙ルトトセリ是ヲ以テ冥獄ノ囚虜ヲ慰ムルハ現世ニ於テ罪人ヲ救助スル如ク一族ノ者之レニ飲食ヲ與ヘテ以テ休養セサルヘコトナルオシ是レ人民カ祖先ヲ祭ルヲ重要ト考フル所以ナリ夫レ祖先ノ福ヲ祈リ後世マテ之レヲ絶セサシ以テ各人缺クハラサルノ重任トスルカ故國法モ亦タ父ニ原由スル

リ蓋シ一夫ニシテ妻妾ヲ要ルハ後代家名ノ断絶センコトナルルニ依レテ故ニ子孫ヲ遺シテ祖先ノ祭祀ヲシメメン欲スルナリ然リ而シテ凡ソ祭禮ハ血統ノ男子ノ主任タルヲ以テ之レヲ執行スルノ權利及ビ義務ハ嫡男乃チ嗣子ノ世襲スル処ナリ是ニ依テ該國ノ人民ハ女子ヲ産マンヨリハ寧ロ男子ヲ生スルヲ好シトス男子生ルレハ宗族ノ喜悅大方ナラサルナリ

今ヤ余ノ所見ヲ以テ斯ノ事情ヲ審フルニ若シ嫡男死シ後チ血統ノ男子微カセハ誰レカ祖先ノ冥福ヲ祈リ迷鬼ヲ救フ者ナランヤ是ニ至テ殆ント其理會ニ惑ハサルヲ得サルナリ斯ル風義ノ行ハルハヲ以テ該國ノ人民ニ耶蘇教ヲ信仰スル者ナシ偶々之レアルモ其親族近鄰ノ擯斥スル処トナレリ一例ヲ示サバ嘗テ上海ニ於テ耶蘇教 仰セシ一少年アリシ

カ其父殊ニ其所業ヲ嫌ヒ我子ヲ懲誡シカ為メ殆ント已レ
ノ身命ヲ顧ミサルニ至レリ蓋シ支那ノ國法ニ依レハ凡ソ人
ノ子タル者慈親ノ意ニ悖戾シ之レカ為メ遂ニ其父非命ニ斃
ル者ハ其罪ヲ親殺律ニ擬シ之レヲ震斷スルヲ以テ恐ラク
死刑ヲ免レサル可シ

死所不明ノ徒或ハ分明ナルモ無縁ニシテ之レガ祭祀ヲ主ル
者非サレハ諸人此入費ヲ寄進シテ之レヲ施行スルヲ通慣ト
スルカ故年々三回ノ祭日アリ當日ニハ施餓鬼場ニ於テ偶像
ヲ裝置シ許多ノ火箭ヲ寄納シ之レニ放火シテ餓鬼ノ靈魂ヲ
慰ハルナリ但シ此入費ハ祭日毎ニ通例一戸ニ付キ一錢ナリ
尤富者ハ多ク寄納スルカ故へ大概年々三千万元ニ下ラ
ス而シテ各私ニ執行スル吊祭料ノ費用概算スルニ支那四
億有餘ノ人口ナレハ平均五人ヲ一戸ト見做シテ八千万戸ト

トナルカ故毎年各五元半ヲ吊祭料ニ供スレハ則チ一億二
千万元トナル而シテ之レニ前文諸人ノ布施金ハ施餓鬼入
費ヲ加フレハ總計併セテ一億五千万ノ巨額トナルヘシ
支那人ノ死者ニ於ルヤ只管ラ之レニ奉事シテ以テ反其冥
罰ヲ恐ルレハ其有様殆ント奴隸ニ異ナラサルナリ蓋シ教法
及ヒ政事上ノ弊斯ク人民ヲ害ナヒ風儀ヲ破ル者ハ全ク國制
ニ關シテ自ラ其成跡ヲ現ハセルナリ是ニ於テ明カニ國情ヲ
察スレハ該國ニ於テ西教ヲ行ハレサル所以ヲ知ルニ足レリ
亡者ノ冥土ニ赴クヤ暫モ苦楚ヲ免レス故ニ人民ハ其冥福ヲ
祈ランカ為メ法會ヲ設ケテ日夜飲食ヲ恣ニスレハ之レカ為
メ健康ヲ殘ヒ貧困ニ陷ル者多シ然レニ地下ノ迷鬼ハ互ニ吞
噬シテ以テ修羅道ノ苦シモヲ受ケタリ

○エルドリツチ曰ク 吾カ亞米利加洲ニ利息セント欲シ其數幾

十萬里ヲ接テ陸續渡航シ來ル彼ノ奇異ナル人種は那ノ信仰ト
風俗トニ付キ是下ガ今余輩ニ讀ミ聞カセシ所ノ一段ハ實ニ余
ノ為メニ益スル所甚タ多シ余ガ友人中支那國ニ旅寓セシモノ
數多アル中ニ一人ノ同國ニ在テ歲月ヲ經過スルヲ十年許ニシ
テニケ年程前ニ歸國セシモノアリ其頃余氏ト酣話ノ次氏ノ談
和屬ク支那國及ヒ其人民ノ情態ニ移リシヲアリキ而シテ其談
モ亦丁度是下ガ讀ミ聞カセシ如ク十分ニ余ニ説示セシト雖モ
氏ハ其事ニ付是ニ至ル所以ノモノハ斯ル道理アルカ為メニ然
リト云フ其見込ヲ細カニ余ニ辨明スルヲ得ザリキ氏且ツ云
ヘリ余屢ク支那人民ガ何故ニ斯ル奇々怪々ノ宗教ヲ信仰スル
ニ至リシカノ理由ヲ索メント欲シタレ氏竟ニ之ヲ果スヲ
得ザリシト

○ソーゾウサツキ曰ク 支那人民カ自ラ文明ノ域ニ在ルト想

像セシ如ク實ニ文明ノ高度ニ進ミ所ノ人民ニシテ斯クマテ無
知愚昧ナリシハ余ノ實ニ奇トシテ解シ能ハサル所ナリ之レ
ニ因テ之レヲ觀レハ未タ學ニ就カザル三尺ノ童子モ尚ホ支那
人ノ智識ニ勝ルヤ萬々ナラサルヲ得サルナリ

○グルーム曰ク 余モ亦貴下ノ如ク世ニ斯ル無智愚昧ノ人民
アルヲ甚タ奇トセリ然リト雖モ我輩モ亦タ偏見ノ為メニ蔽ハ
レ知ラス識ラス暗愚ニ陥ルヲナキニ非サレハ獨リ自ラ許シテ
文明ノ民人トシ自負驕傲ヲ專ラニスル能ハザルベシ何トナレ
ハ我輩ノ慣習トナリ来リシヲハ理義ニ適ハザルヲアルモ之レ
ヲ深信シテ毫モ疑ヲ容レサレハナリ貴下等ハ之レヲ知ラン現
今諸文明國ニ於テ上古蒙昧時代ヨリ今日ニ傳來セシ一説ニ基
キ法貨トシテ金銀ヲ使用スルヲハキリスチヤン宗民カ擯年ス
ル所ノ支那人ノ風俗程ニハ甚シカラザレ氏齊シク是レ皆愚笑

ヲ免カレザルナラ余が主張スルヲ且ツ余カ明言シテ貨幣
トシテ金ヲ使用スルハ蠻風ナリトナス所ノ論点ハ論理上ニ於
テモ實際工ニ於テモ正理ニ適ヘリト一般世人ノ認許スルニ至
ルヘキハ夫レ甚タ近キアラシトスルナリ

○リチャルドソン曰ク「グルーム氏ヨ余ハ足下ガ貨幣トシテ
金ヲ使用スルハ蠻風ナリトノ説ヲ無言ニ付セサランコトヲ請
フ

○グルーム曰ク素ヨリ余ハ金ヲ以テ一種ノ物質トナシ而シ
テ通用貨幣ト見認メザルニ至ルマデハ此事ヲ囑リニ鍛究セシ
ト欲ス何トナレハ我輩が最モ注意ヲ要スル所ノ至緊ノ目的ハ
持主ノ所好ニ任セ政府ノ定利付公債証書ト相互交換スルヲ得
セシムルヲツミヨナルペーパー、モニ、トークン（國內通貨發行
用紙幣）ノ制ヲ設クルニアレバナリ

○ソーヅウギツキ曰ク余ハ既ニ足下ノ説ノ正理ニ違ハサル
ヲ信スト雖モ猶ホ何故ニ今日ニ至ルマテ紙幣ノ使用ヲ以テ金
銀貨ノ使用ヨリ便利トシ一層ノ満足ヲ與ヘザリシヤノ理由ヲ
問ハント欲ス足下ハ過刻紙幣ヲ使用シ来ルヲ茲ニ殆ト二百年
ノ久シキヲ經過スト言ヘリ人或ハ言ハン已ニ二百年ノ久シキ
ヲ經ハ其間豈ニ其利害得失ヲ証明スルニ足ル十分ノ時間ナカ
ラン若レ既ニ其利アルヲ現ハサハ何が故ニ今日ヲ待タスレテ
業ニ已ニ世ニ行ハレザリシヤト

○グルーム曰ク省ヨ我輩カ歴史工ニ於テ觀ル如ク支那人ノ
其愚昧ナル宗教ヲ固信スル已ニ二三千年ノ久シキニ及ヒレ
テ是レヲ以テ之レヲ觀ルハ完全ナルペーパー、モニ、トーク
ン紙幣發行ノ方法カ今日ニ至ルマテ世ノ了解スル所タラザリ
シモ亦タ甚タ怪シムニ足ラザルナリ從來紙幣發行工ニ於テ經

驗シ来リシ所ノ一大困難トナス所ノモノハ斯ル紙幣ノ發行額ヲ規則立テ且ツ其價格ヲ一定セシムルノ一事ナリキ

○リチャルトソン曰ク 余カ意見モ亦此ニアリ然リ而シテ余

ハ斯ノ如キ困難ハ仍ホ依然トシテ今日ニモ存留スト思惟セリ

○グルーム曰ク 國內通用紙幣「トークン」ヲシテ政府ノ定利付

公債証書ト相互交換スルヲ得セシムルハ則チ毫モ斯ノ如キ

困難アルヲナクシテ之レニ依テ以テ紙幣ノ發行額ヲ規則立テ

且ツ其價格ヲ確定スルヲ得而シテ決シテ此二者(紙幣ト公債

証書ヲ指スノ間ニ相庭ヲ生ハルノ憂虞ナカルベシ

○リチャルドソン曰ク 是下ガ主張スル所ノ相互交換法ナル

モノハ何人カ曾テ之レヲ實際ニ試ミシモノアリシヤ

○グルーム曰ク 未ダ曾テ之レヲ試ミシモノアラザルナリ余

ハ理財論者ノ中若シモ斯ル方法ヲ唱ヘシモノアラザリシヤト

廣ク万卷ノ書ヲ涉獵シタレ氏之レニ類似ノ説ヲ唱フルモノヲモ見出スヲ得ザリシ

○エルドリッヂ氏曰ク 余ハ請フ是下ガ今余等ニ讀ミ聞カセ

タル文中ニアリシ二字ノ義ヲ解釋セル一章ヲ余ニ讀ミ聞カセ

ラレン「ヲ」是下ハ該文字ヲ「譯スル」ハ風水ノ義ニ當タレ氏

此二字タル意味頗ル深重ナリ而シテ其解釋ハ次章ニ詳ラカナ

リト云ヘリ

○グルーム曰ク 貴下ガ解釋ヲ聞カン「ヲ」ヲ求ムル所ノ二字ノ

義トハ蓋シ「フ」シ「エ」イ(風水)ノ字義ナラン

○エルドリッヂ曰ク 然リ其事ナリ

○グルーム曰ク 余ハ甚ダ困却ス之レヲ讀ム片ハ多クノ時間

ヲ費ヤシ且ツ報章欄内ニ掲載セハ多クノ紙幅ヲ占ムルヲ因

テ貴下ノ吾ガ「デ」エールナル「新聞紙」ニ就テ其一篇ヲ一覽アラ

コソ余ニ於テ好便宜ナリト思惟ス該新聞紙刊行ノ日ハ一千八百六十八年七月十六日ナリ余今吾カ社ノ書記ニシテ之レヲ貴下ニ供セシムベシ

○ソーゾウキツキ曰ク 今「エルドリッヂ」氏ガ足下ニ請ヒシ所ノ一篇ヲ讀ミ且ツ之レヲ報告欄内ニ掲載セシニ素ヨリ多クノ時間ト紙幅トヲ費ヤサバルヘカラズ而シテ其レ之レヲ費ヤセシ程ノ効益アルヤ否ヤハ預シメ断定シ難シト雖モ「支那人祖祭ノ事」チヤイニース、アンセストラル、ウアルシツプ」ト題セル一篇ヨリ之レヲ觀ルハ余ハ足下ノ之レヲ讀ミ聞カセ且ツ更ラニ再刻セラレンコソ我輩ノ為メニ利益ナラント思惟ス

○リチャルドソン曰ク 余モ亦タ之レヲ聞カン「」ヲ欲ス而シテ其レヲ足下ニ請フ所ノ意頗ル「」トゾウキツキ「エルドリッヂ」ニ氏ニ同セリ

卅三

○グルーム曰ク 然ラハ貴下等ノ望ニ應シテ之レヲ讀マン然シテ貴下等ニ一言セザルベカラザル「」アリ抑々此ノ一篇ヲ吾ガ社ニ投寄セシハ吾ガ凡友ナラザル「」ウエム、ゼー、ノウルトシ「」夫妻ニシテ此ノタル支那宣教師トシテ數年同該國ニ滞在セシ人ナルガ故ニ篇中述フル「」支那人ノ情状ヲ悉クシ毫モ其實ヲ失セザルノ正說ナリ

風水ノ說

支那人ガ常ニ唱フル所ノフンシユイナル語ハ一種特異ノ意義アリ其ノ說諸書散見スル者頗ル煩一ナラザルヲシテ容易明解スベカラザル所アリ然レモ曾テ聞見セル事實ニ依テ畧ホ會得スル所ノモノアリ
借テフンシユイト云フ字面ニ依レハ單ニ風水トノ義ニ過キス然レモ現今支那人ガ通俗慣用スル所ヲ觀ルニ南方ヨリ

来ル吉事北方ヨリ来ル凶事ト云フ義理アルモノシテ凡ソ
世上ノ万物其有機無機ヲ問ハス悉ク皆斯氣ニ感シテ其吉凶
禍福ヲ異ニスル所アリト妄想スルニ至レリ

斯ル想像ノ由来スル所ヲ尋ヌルニ彼ノ植物ノ隆冬ニ凋落シ
盛夏ニ繁茂スル如キ皆風水ノ氣ニ感シテ自ラ榮枯盛衰アル
モノナレハ人モ亦タ斯ノ變動ニ感スル所アリ殊ニ諸動物ノ
或ハ氣力ヲ失ヒ或ハ快氣ヲ得ルノ類總テ原由セサルナシト
斯ク支那人ハ万物ヲ舉テ斯ノ氣ニ感應セサル者莫シト認メ
南方ノ方位ハ吉凶禍福ノ由スル処ト定メタリ然リ而シテ
此ノ氣タルヤ當ニ此ノ人間世界ニ感應ヲナスノミナラス彼
ノ幽冥世界ニモ亦タ然ルガ故ニ墓地ノ如キハ殊ニ攘凶ノ方
位ヲ撰ミ死者ヲシテ南方ノ氣ニ感セシメザル可カラズト
支那人常ニ妄信スラク人ノ資性素ヨリ善ナレハ自カラ南方

ノ氣ニ感應シ易シト是ノ故ニ切ニ南方ノ方位ヲ觀テ吉凶ヲ
占ヒ禍福ノ由来スル所ヲ判斷シ以テ漸ク諸事ヲ處セント欲
セリ

南方ノ方位ヲ論シ禍福ヲ判スルノ術ハ則チ風水ノ一學科ナ
リ斯ノ學識ヲ有スル者ハ必ズ北方ノ氣ヲ避ケ南方ノ氣ヲ
迎フルノ理ニ明カナリ其言フ所ヲ聞クニ南方ハ河水ノ周匝
スル処ヲ好シトス故ニ斯ノ地形ヲ缺クハ人民殊更ニ疏水
ノエヲ興スヲアリ且又其ノ地位ニ當リ墳塋家屋生垣丘陵道
路ノ如キ苟モ南薰ノ氣ヲ蔽遮スル処ハ居ヲトスルニ不可ナ
リ上海ノ地方ハ概ネ平坦ニシテ更ニ遮塞スル所ナケレハ其
地形全ク風水ノ方位ニ背ケリ又タ世ノ通諺ニ菊鬱タル數百
年ヲ經シ大樹ハ容易ニ風水ノ氣ニ感染スルモノナレハ往々
凶變ノ恐レアリ故ニ偶々之レヲ斫ル者ハ其身命ヲ顧ミズト

云ヘリ又々地方ニ因^ル天然ノ蔽障物^{山岳}ヲ欠クハ假リ
ニ人エヲ以テ恰カモ馬蹄ノ如キ形体ヲナス半圓形ノ土堤ヲ
築キ墳墓或ハ家宅ヲ蔽掩ス又々窓戸ノ工下ニ彩色ヲ施セシ
ハ角板或ハ虎頭ヲ描キシ方形板ヲ張付ルモノアリ又新タニ
家屋ヲ建築シテ若シ其ノ方位風水ニ悖レハ竹竿頭ニ簾及ヒ
籠ヲ結紮シ之レヲ家根ノ^頂ニ措キ假リニ蔽障物ノ方式ヲ行
フ其意第ヲ以テ北方ノ惡魔ヲ掃ヒ籠ヲ以テ之レヲ因ユルニ
在リト又々船舶ニハ棍端ニ拂子ヲ結ヒ之レヲ舳ノ邊ニ据ヘ
付クルヲ方トス

支那ノ人ノ説ニ妄リニ方位ヲ變スレハ往々風ガヲ紊ル所アリ
則チ堂屋ノ^頂ニ塔尖ヲ付ケ或ハ棧敷ヲ設ケンガ為メ竿子ヲ
立テ若クハ樹木ヲ斫ル如キハ殊ニ其著明ナル者ナリ然テ人
目ニ奇異ナル物ヲ製作スルノ類ハ風水ノ精氣ヲ殘ヒ生者死

者ノ別ナク凶災ヲ受クヘシト云ヘリ

支那語ニテセイ^ンサント呼フ風水ノ學ヲ講スル者ハ多年登
雪ノ勞ヲ積ムニアラサレハ決シテ其學術ノ奧義ヲ理會スル
ト克ハス蓋シ支那學科工ニ於テ最モ優等トナス所ノモノナ
リ乃チ其學識ヲ有スル^ンサント唱フル者ハ克ク世工ニ
於テ信任力ヲ占ムルカ故ニ其人民ヲ教訓スルヤ其有様恰モ
僧侶ノ如ク心術極メテ巧ミナリト云フヘシ人民墓地ヲトス
ルニハ必ス斯ノ教師ヲ招キ其方位ヲ問フヲ常トス然ルニ一
旦築キシ墳墓モ後チ他ノ教師ノ為メニ非難サルレハ往々其
地位ヲ換ヘ再建スル者アリ斯ノ如ク教師ハ狡智ニ馴レ^テ屢
ニ謝金ヲ貪ル^ヲ多シ然シテ斯ク時々墓地ヲ變スルニ依リ他
人ノ墳墓之レカ為メニ其方位ヲ紊リ遂ニ葛藤ヲ生シ訟庭ヲ
煩ハスニ至ル^ヲアリ然ル所以ハ其墳墓克ク風水ノ方位ニ稱

フキハ命ヲ長シ財ヲ増シ家道益々振ヒ其血族ヨリ高官ニ登
リ頭職ニ出ル人物ヲ産シ子孫益々盛昌スルノ慶兆アルヲ以
テ墓地ハ各族ノ休戚ニ関スル所ニシテ人民尤モ切要トスレ
ハナリ

諸テ前述ノ如キトニ關シ詞訟スル者アレハ法庭容易ニ受理
シ之レヲ審判スル其常ナリ是ニ由テ之レヲ觀レハ風水ノ
方位ヲ擇ミ死者ノ靈魂ヲ慰ムルノ類ハ國民一般ノ通義ナル
ノミナラス法律上ニ於テ死者ノ權利ヲ認ムルヲ猶ホ生者ニ
異ナラザルヲ知ルニ足レ又前篇既ニ叙述セシ如ク人民其
祖先ヲ祭ルノ陋弊モ全ク此慣習ニ原ク者ナリ今斯ノ事實
ヲ視テ明ニ其由来スル所ヲ証スヘシ只ク此一項ニ就テ事實
ヲ知り而シテ古來ヨリ既ニ人民ノ風儀ニ関スル處ヲ辨セサ
ルハ殆ント其理由ニ昏迷スルノミナラス支那人政事及ニ

交際ノ道ハ何ノ義理アルヤヲ通曉スルヲ能ハサルナリ

今次條ニ於テ尚ホ其事情ヲ示サン該國ノ人民ハ其地方ノ方
位風水ニ悖レリト唱フルヲ屢々ナリ其實証ヲ徵サハ年頃現
ニ商估ノ道塞リ家業頓ニ衰狀ヲ顯セシ所ヲ視ルヘシ斯ル時
節ニ際シテハ必ス例シテインサンヲ招キ其原由ヲ問ヒ為
メニ攘校ノ術ヲ施サンヲ請フ常習アリ若シ其地方ノ風水
ニ悖レル區域浩大ナルハ中央ニ於テ望觀ニ便ナル所ヲ擇
ミ高臺ヲ築キ其頂上ヨリ地位ヲ相テ以テ風水ノ矩合ヲ直ス
ト云ヘリ斯ク風水ノ為メニ人民舉テ高臺ヲ設クルアルガ故
ニ内地ニ於テ屢々之レヲ目撃スルヲアリ

邦國ノ方位風ニ悖レハ不慮ノ叛亂或ハ國難ヲ招ク者トセリ
過頃上海ノ市街數民ノ為メニ劫掠ヲ蒙リシ後數年ヲ歷テ風
水學師ニ斯禍機ノ起ル所以ヲ尋子シニ師判シテ口ク北門ト

呼フ地ニアル祠堂ハ諸方寄進人ノ募集金ヲ以テ建築シタル
モノナリ然ルニ寄進人ノ中ニ其家系頗ル汚穢ナル者アレハ
之レカ為メ風水ノ氣ヲ紊リ竟ニ禍亂ノ崇ラル、所トナレリ
惜テ又支那語ニテ斯ノ如キ寄進人ヲウ、テ「ウ」ト呼フ即チ
龜ト云フ義ナリ而シテ彼ノ祠堂ヲ視レハ其形象恰モ南方ニ
赴ク龜ノ状アルヲ以テ人々其奇遇ヲ感シ不可思議ノ思ヲナ
セリ其祠堂ノ四境ハ河水ト街陌トニ據テ全ク圍繞セラレ四
隅ニ石橋ヲ架設シタレハ其四橋恰モ龜ノ四足ノ如ク正面特
ニ一橋アリ恰モ頭顱ノ如ク又正面ニ二個ノ水井アリテ正ニ
其兩眼ヲ形チ作り祠堂ノ全部其軀殼ニ當リ殆ント龜ノ状ヲ
ナス加之其形象顛倒ノ趣ヲナセリ斯ク祠堂ノ方位ハ凶惡ナ
ルニ上海ノ市街ハ正ニ其堂背ニ當レハ其方角亦タ北門ノ咽
喉ニ碍レルカ故自ラ其殃兆ニ觸ルレハ祠堂ノ方位ヲ變シ其

趣ヲ改メザルベカラズト然ルニ神佛ヲ鎮坐セシモノニ係
ラシテ衆人敢テ之レヲ廢徹セント欲スルモノナシ因テ其所
以テ風水學師ニ告ケ更ニ振被ノ術ヲ乞フ師曰ク然ラハ祠堂
ノ名ヲ換ヘ龜ノ兩眼ヲ潰セ爾クセハ最早民ノ禍災ヲ醸生ス
ルニ至ラサルヘシト是ニ於テ市民ハ直チニ兩井ヲ埋メ以テ
ラク既ニ風水ノ障礙ヲ除去シタレハ重テ凶兆ヲ現スノ患ナ
シト

一千八百六十六年ノ頃諸般ノ商業著シク衰狀ヲ現ハシ上海
ノ市民皆ナ色ヲ變シテ各々慘情ヲ懷ケリ此景況ヲ視ルニ方
リ風水學師其由来スル所ヲ發見シテ曰ク北門ノ方位ニ於テ
蔽障物ヲ欠クヲ以テ當ニ南方ヨリ來ル佳氣外人ノ居留地ヲ
越ヘテ流散スルノミナラス北方ヨリ來ル凶氣却テ流入シ易
スキ有様ナルガ故ニ遂ニ此地ノ不繁昌ヲ醸セルナリ故ニ北

門ト呼フ地所ニ鬱形ニ塀牆但シ其外側ヲ穿テ通ヲ築クベシ然ラハ容易ニ商業ヲ挽回スルニ至ラント是ニ於テ其言ニ從ヒ建築ヲ起セシニ風水ノ理學師ノ説ハ毫モ其効驗ヲ現スニ足ラス商業ハ依然トシテ不景況ヲ變セサリシ
前文既ニ叙陳セシ如ク風水ノ方位ヲ占ヒ祖先ヲ祭ル事實ヲ考察スレハ支那人ノ開化ヲ忌ミ外人ヲ嫌フ心情ヲ知ルニ足レリ然ルニ泰西諸國ノ如キハ全ク此有様ニ反シ學術ハ日新ヲ貴フニ依リ彼ノ奇巧ナル電信ヲ架シ或ハ鐵道及ヒ造船所ノ類ヲ築キ或ハ鑛坑ヲ興シ之レカ為メニ往々墳墓ヲ開掘スルヲアリ若シ支那人ヲシテ斯ノ實況ヲ一覽セシメハ必ス吃驚シテ言ハシス如キ罪障ヲ此世ニ作ルハ彼世ニ至テ必ス叛亂ノ苦果ニ沈ムヘシト
耶蘇宗寺院内ニ在ケル塔宇ノ方位風水ニ碍レルヲ以テ邑里

ノ人其所以ヲ寺院ニ告ケ速カニ之レヲ廢撤セシヲ乞ヘリ斯ノ官民共ニ風水ノ説ニ惑溺セルガ故ニ國家ノ諸工業ハ公私ヲ問ハス渾テ先ツ方位ヲ相シ吉凶ヲ占フヲ常トセリ
支那人ハ外國ノ事物ヲ忌ミ敢テ之レヲ試用スルヲ欲セサルノミナラス交際上ノ義務ニ因リ止ムヲ得スシテ允准セシ一二ノ事スラ尚ホ其事ノ妖凶ニ涉ルヲ恐れ後來暗ニ之レヲ變易スルノ念ヲ放タサルナリ斯ク其心情極メテ頑固ナルヲ以テ外人ハ威カヲ以テ該國人ヲ脅迫シ鎮壓スルニ非ラサレハ一日モ平和ヲ保ツヲ克ハス何トナレハ支那人ハ固ヨリ外交ヲ重セス契約ヲ破ルヲ意トセザレバナリ
支那人ノ資性ハ物理ヲ悟ルニ足レル者ナレハ唯教育ヲ施シ以テ誘導スルアラハ其改革容易ニ期スヘキナリ若シ此ニ至ラハ必ス該國ノ風俗ハ一變シ遂ニ夫ノ兇戾ニ類スル所業

ヲ見サルニ至リ人民始メテ年来ノ眞霧ヲ排シ眞理ノ朝歌ヲ
仰クニ至ラン

○エルドリツデ氏曰ク 支那人ノ情状ニ付今午後我輩カ聞知
シ得タル所ノ事ハ實ニ余ガ今日來會セシニ報フルニ足ルノ甚
ク大ナルモノナリ蓋シ支那人ノ迷誤ハ以テ能ク我輩ヲ警戒ス
ルニ足レリ若シ余輩ヲシテ十分注意熟思セシムルハ尚ホ為
メニ曉得シ來ル所ノ利益更ニ大ナルモノアラン而シテ余ハ信
ス我輩カ通用貨幣ノ基礎トシテ金ヲ使用センノ説ヲ固守ス
ル意見ノ非ヲ悟リ自ラ恥ルノ日ハ今ヲ距ル甚タ遠キニアラザ
ラン

○ソーヅウ井ツキ曰ク 諸君ヨ余モ亦午後論議ノ結局ニ付霧
ノ霽ルハガ如ク甚タ爽快ヲ覺ヘタリ而シテ余ハ保ス獨リ余
ヲシテ爽快ヲ覺ヘシムルノミナラス極メテ世ノ大有益事ナ

クヲ是ヲ以テ自今以後心ヲ用ヒ事ノ公私細大ヲ問ハス智力
及フ文ケ其實理ノアル所ヲ發見センノニ注目シ又今日ニ在テ
モ現ニ我輩ノ間ニ行ハルニ妄説ノ為メニ誤マルハナカラ
ン欲ス素ヨリ我輩ハ今日ニ於テ支那人ノ愚昧ナルニ驚ク然シ
テ自カラ顧ミレハ實ニグルム氏ノ説ノ如ク後人ヨリ我輩ヲ
觀ハ必ス其實理ヲ曉ルニ遲鈍ナリシヲニ愕クハ猶ホ我輩カ今
日支那人ノ愚昧ニ駭クカ如クナランハ明鏡ニ照ラシテ見ルカ
如シ

○グルム曰ク 我輩今日ノ議論ハ先ノ局ヲ是ニ結ビテハ如
何ノ最早時刻已ニ移レリ且ツ今迄我輩ノ談論ヲ筆記セシデヨ
ルデハ今日種々擔當ノ事務アリ時刻モ亦已ニ晚ケレバ速カニ
辭シ去ランヲ希望セリ

○リチャルドソン曰ク 諾余ハ來一月十五日(土曜日)ニ於テ再

此ニ來會スヘシ余ハ十五日前ノ土曜日ニハ來會スルヲ得
ス而シテソーツウ井ツキ氏モ亦今ヨリ六週間餘我輩ト出會ス
ルヲ得スト云ヘリ

○ダルトム曰ク 一々了養セリ若シ來一月十五日ニ來テ再會
ヲ開カハ我輩ハ此貨幣論ノ局ヲ其會ニ於テ結バント欲ス○ダ
ルトム曰クヨ足下ハ今ヨリ辭レ去レ我輩ニ於テハ最早今日報告ス
ヘキヲアラサルナリ

一千八百七十年一月十五日 土曜日

リチャルドソン「セームス、ハルステット」二氏來ル

○リチャルドソン曰ク「ダルトム」氏ヨ余ハ足下ト「ヨルダ」氏
カ毎々約ミ違フヲナク此席ニ在ルヲ見實ニ満足少ナカラザル
ナリ余カ如キハ約ヲ違ヘシヲ既ニ數度ニ及ヘ足下ハ未タ曾
テ一回モ然ルヲアラサリシ偕今日余カ伴ヒ來リシ所ノ人ハ吾
ガ友人「ゼームス、ハルステット」氏ナリ請フ今後足下ノ氏ヲ待遇
スル猶ホ余ニ於ケルカ如ク懇篤ナランヲ

○ダルトム曰ク「リチャルドソン」氏ヨ余ハ貴下ト復タ會スル
ヲ以テ甚タ満足トス然ルニ又貴下ノ友人ナル「ハルステット」氏
ト交ヲ結フヲ得實ニ歡喜ニ堪ヘス先ツ坐ニ着ケ貴下等ニ若シ
都合惡シカラズンハ我輩ハ直チニ貨幣ノ談論ニ進ミ成ルベク今
日ヲ以テ其局ヲ結バント欲ス素ヨリ我輩ハ爾後何時マデモ此談論

テ之ヲ概計スルハ備ニ錢九ノ四分ニテ今日ニ於ケル如クニ食物ヲ求メ四分ノ一ヲ以テ衣服ヲ購フヲ得タリ
キ(但シ此一段ハ「アダム、クラルクス」氏ノ著書中ニ見ユ)是ヲ以テ之ヲ觀レハ金銀及ヒ銅ハ一千三百年代以來其價格上ニ變更アリシニ非ヌヤ金本位ノ主張者其變更ノ有無ニ付テ如何ナル論說アル乎金價ノ非常ニ變更セシハ實ニ疑ヲ容ルベ
カヲナルナリ

○グルーム曰ク 然ラハ貴下等ハ金ト國內通用紙幣トニ於ケル一問題ニ付テハ如何ナル論議ニ決セシヤ

○リチャルドソン曰ク 我輩ハ足下ガ曾テ公告セシ所ノ賞金一千ドルヲ何人ニモ與フルニ及バサルベシトノ議ニ決ス
ソウヅウハ氏來ル

○リチャルドソン曰ク ソウヅウ井ツキ氏今日貴下ノ出席甚

タ遲シ余ハ最キニ以テラ貴下ハ必ス余ニ先ツツテ既ニ出席アリシナント

○クルーム曰ク ソウヅウ井ツキ氏ヨ余ハ今日貴下ニ面シテ甚々欣喜ス者リチャルドソン氏ハ最早金貨ヲ廢シテ國內通用紙幣ヲ採用セントノ說ニ抵抗スルヲ止メ却テ之ニ信服スルモノ、如シ

○ソウヅウ井ツキ曰ク 然リ我輩過日「リチャルドソン」氏ノ商館ニ於テ此ノ件ニ付キ長談數刻ニ及ビ終ニ足下ガ主張セル貨幣說ハ完全ニシテ正理ニ戻ラザルトノ議ニ決ヒリ而シテ余ハ足下ガ主張セシ所ノ貨幣說ヲ略ボク演シテ之ト聞ケ余ガ今之ヲ試ムルヲ

持主ノ所好ニ任セ國內通用貨幣ト定利付公債證書トヲシテ相互交換セシムルハ恰モ空氣機關ノ運轉ガ其穩行球ニ依

リテ規則立ラデル、ガタリ理財、貿易トノ運、ラ支配スベ
キ確乎タル貨幣ノ基礎ヲ致シ斯ル「ベ」バ「モ」ートトクン
ス紙幣、夫ノ金及ヒ銀ガ既往若シクハ將來ニ於テ價格ノ尺
度タルヨリ一層完全ナル價格尺度タルベシ、今ノ時世ニ於
テハ金若シクハ其他ノ商品ヲ貨幣ト使用スルハ即チ目見昇
ム「キ」野蠻ノ風習ナランノミ
○「レ」ム曰ク 是レ實ニ絶妙ナリ貴下ハ余カ説ヲ遺漏ナク
諸記シ一句ヲモ惣ツ所ナシ

○ソウツウサキ曰ク 「リ」チヤルドソン氏ト余ガ足下ノ説ニ十
分信服セシハ余カ貴説ヲ口演シ能フヲ以テ知ルニ足レリ就
ハ目今以後盡力シテ足下ノ貨幣説ノ茲々世ニ廣布シ「テ」助
クヘシ

○「ル」ム曰ク 爰ニ至リテハ最早貴下等ハ皆余カ説ニ同意

211

シタルナレハ此上紙幣ヲ是トスルノ説ニ付テ論セ「テ」ハ必要
ナラザルベシト余ハ思フナリ

○「ル」ムツト曰ク 余ハ今マ足下ノ今マ「貴下等」カ
氏ノ「ド」ム説ニ同意セリト云フ一言ニ服セザル所アリ何トナレ
ハ余ハ吾ガ合衆國ノ成ル丈ケ早ク正金拂ニ恢復セシ「テ」希フ
意ナレハナリ

「リ」トセザルベ「テ」ラスト余ハ思惟ス「レ」ハ今日「余」ト同伴シ來ル
途余ニ言ヒ曰ク予ノ會社ニ於テハ六七年以來「デ」ユー「ル」カ
新聞紙ヲ取リ來タレ「モ」予ハ唯此貨幣論ノ一部ヲ「レ」閱セシ「ノ」ミ
ト

○「ハ」ルス「テ」ツト曰ク 余ハ余カ是迄「デ」ユー「ル」カ「ル」新聞紙ヲ細
カ「レ」閱ミ得サリ「テ」理由ヲ「レ」聲明セザルベ「テ」ラス余ハ社中ノ長老

ナ「エ」ルソシ「氏」ハ「ラン」シ「氏」英「余」其仲間「加入」スル前
ヨリ貴社「デュー」ル「新聞紙」ヲ取リ來リ之「愛慕」シ獨「其」閱
覽「ヲ」專「ラ」スルヲ以テ往々自宅「ニ」携ヘ歸「レ」是「ヲ」以テ
余「之」ヲ細讀シ難シ此頃偶々前週發兌「ノ」貴社新聞「氏」上「ニ」掲「ク」
一文「ヲ」閱ミ「ス」其文蓋シ「ニ」エ「リ」ヨ「リ」府下屈指「ノ」大商「及」
「之」名「ヲ」記名調印セル大藏卿「グートウ」エル「氏」上呈「ノ」書ナリ
余「ハ」此「ノ」書「ニ」付キ余「ノ」為「ノ」一二「ノ」辨解「ヲ」與「ラ」ルヲ欲「ス」
余「以」為「ラ」ク足下ガ果シテ余「ノ」疑團「ヲ」シテ釋然冰解「ニ」至「コ」
シムル程十分「ノ」辨解「ヲ」與「フル」ヲ得ント

○「ガ」ル「ム」曰「ク」當今「ハ」聞此事「ニ」付キ余「ニ」辨明セシメガレ余
「ハ」此事「ニ」キ「一」言「ヲ」モ發「ス」ルヲ欲セス尤「モ」不日「ニ」エ「ル」
新聞紙「ニ」於テ之「ヲ」論「ス」ト欲「ス」ナリ

○「ノ」ゾ「井」シ「キ」曰「ク」余爰「ニ」ハ「ル」ステ「ク」氏「ガ」謂「フ」所「ハ」一

四、四

文「ヲ」掲載セシ「デュー」ル「新聞紙」ヲ持セリ「一」月「十」
發兌「ノ」日「ニ」ハ「氏」名「ヲ」不都「ク」ナクシハ余「ハ」其「ノ」
事件「ノ」一「ニ」紙「ヲ」專「ニ」付「オ」ハイ「州」ニ於テ刊「ハ」ル「新聞紙」
ニ掲載「ス」ル論説「ノ」拔萃文「ヲ」讀マン

○「グ」ル「ム」曰「ク」若「シ」貴下「之」ヲ讀ミ十分「ニ」貴下等「ニ」益「ス」所
「ヲ」ハ素ヨリ余「ハ」決シテ之「ヲ」支障トナスコナシ

○「一」週間「ニ」於「テ」我輩「ハ」下「ニ」掲載「ス」所「ノ」愛慕「ノ」熱心「ニ」出
一通「ノ」建言書「ニ」記名調印シテ之「ヲ」財主商人「及」人望「ノ」人
人「ニ」廻達セ「ル」或ル同業記者「ハ」此「ノ」所為「ヲ」以テ「モ」勇敢敏捷

舉「ト」評セリ

大藏卿「ガ」ヨ「シ」エ「ス」「フ」エル閣下「呈」スル書
言「テ」白「ス」方今我「ガ」合衆國「ノ」債証書「ノ」金市場「於」購求

トタルニ溢價ヲ以テスルニハ政府發行無利息
「プロミス」指紙幣ヲ利付公債証券ニ交換ルノ便ヲ得ント
欲スルニ得ベカラサルヲ以テ下名ノ其等紙幣應願ス閣下ガ
某等ノ言ヲ現今開院ノ議會ニ送り其商議付コラシント
其旨趣ハ即チ一千「トル」ル或ハ二千「ドル」ルノ公債
「コシ」之ヲ持主ノ所好ニ任セ現今合法紙幣ト相互交換ノ
法ハ且ツ該證書ハ一ケ年百分ノ三、六、五ノ利ヲ帶ビ
國立銀行準備法律ヲ以テ定メタルノ用ニ供スルヲ導
ムルコト是レナリ
此學問ノ事ニ付キ正金拵ヲ速ニ恢復セント熱中スル論者タル
新聞記者抵抗論如ハ殊ニ熟慮ヲ要スルモノナリ
金拵「セント」喋々論議所ノ及ハ總テ國債即チ紙幣
廢棄ヲ求ムルニト我輩ハ認メサルベカラ

四、五

英國政府カ無利息國債即チ紙幣并ニ百ニキ三、六、五ノ利
公債ニ高利ノ紙幣ニ悉クシ能ハサル間ハ百
建言書ニ載シキ利ノ公債證券ヲ持主ノ所ニ
合法紙幣ニ交換センコト言ニ抵抗スル所ノ人ハ即チ是レ我カ
合衆國民ノ利益ヲ謀ラ知ラサルノミナラス反テ我カラ
害セントスルモノナリ
「コロム」ブス、クライシ「新聞紙」ニ正金佛ヲ主張
「提議」セリ我輩ハ此事ニ付キ前既ニ論レ現今又我
ガ論旨ヲ陳ブルノ便トナサンカ為メ我輩ハ其社説ニ
一章ヲ拔萃シテ之ヲ爰ニ掲セシム
我輩素ヨリ紙幣說主張者ニアラサレ、曾シテ主張セン
アラス然レニ我輩ハ其實ニ論シテ我カ「新聞紙」有客ヲ欺
ムカサルベシ蓋シ正金佛恢復ヲ急速ニシ
歲首

ニ今衆國一般ノ破レ 至ル 勿論 已ノ 國債

廢棄 紙幣ヲ引換ニ至ル 疑々 容レサル所 アリ爰ニ我々ハ七

億ノ紙幣ヲ有ス而シテ合衆國ノ人口ハ四千萬ニシテ其分ハ高

壹人ニ付キ凡ソ十七「ドル」ラ 五十「セント」ニ當ルベシ然ル

英國ニ於テハ壹人ニ付凡ソ金貨二十五「ドル」ラル弗

十五「ドル」ル日且曼聯邦ニ於テハ二十「ドル」ラル

幣ノ額ニ又隨テ大ナ一サルヘカラス此割合ヲ以テ合衆國

平 見ルハ少クモ壹人ニ付四十「ドル」ラリ下

然ルハ現今ノ流通高七億「ドル」ラルニ代ヘテ少ナク

「ドル」ニシテ一ニシ之レ 因テ之ヲ割 正

ハテ流 爲メニ合衆國ヲ

ハニシテ終ニハ國債廢棄ニ至リテ マル

シテ之ヲ濟ハンガ爲ニ如何ナル論辨 貴ス

モ時ニ晩 到底奈 莫スベカラサル

曰 諸君、ハ「ソ」ツウ ツキ氏カ讀

意 其文中ニ於テ急カラ明亮ナレハ余ガ爲メニ如何ナル辨

明ラモ貴ヤスヲ要セラルナリ。余此ニ一塊ノ黄金ヲ持

ラ鬻カント欲ス恐ラクハハルス「ドル」氏ハ之ヲ購ハント欲

ル トナレハ氏ハ前キニ我カ合衆國人民ハ成ル丈

全 辨ニ恢復 サルベカラストノ言ヲ依然

告ケタルハナリ

○ハルス「ドル」曰ク 余ハ勿論其説ヲ呆持ス然レト雖モ余

未タ曾テ銅片ヲ購ナハント云、シ「ドル」ナリ

○「ドル」ム曰ク 然ラハ下ニ一塊ノ一萬ヲ以テ賣ト

スヤ

ハル、テ、ト、ロ、ク、
リト雖其價甚賤シキ、
ナルヤヲ与ゲヨ
ノトルガ如シ願、
其何種、
正属

○グルーム曰ク 貴下ノ見ラシ、
部ノミヲ装ヒシ貨物ニアラス貴下ハ幾何ノ價ヲ以テ之ヲ買ハ

欲トルヤ余ハ賤價ニテ之ヲ鬻シント欲

ソド曰ク 余ハ其貨ノ何物タルヲ知ル迄ハ之ヲ賣ル

ルーム曰ク 然ハ貴下ニ其實ヲ告ケン嘗ハ三度
知人中之ヲ一ニ購ナハント云ヒシモノアリテ

之、
サリシヲ曉リ太

曰ク 余ハ敢テ此輩ノ眼力ハサリ

○ソイツ 其一塊ノ金高ハ一ドルヲ上

ア、
金屋塊ヲ一覽セシ、
其形ハ恰カモ鐵道、
於、
旅具、
符

貼、
新券票、
其、
番號、
モナク、
又、
穴、
モナケレ

○グルーム曰ク リチャルトソン氏ヨ貴下、
塊ノ金属ヲ僅カニ一ドルヲル、
少價ヲ以テ購ナフノ好機ヲ見

ルヲ喜ブヲラント余ハ想定ス
○リチャルトソン氏曰ク 余ハ收テ之ヲ一

欲ヤス名シ足下、
欲ヲ聞ル前、
路

ニ通シタルニ之ヲ拾ヒ

○グルーム曰ク 余ハ貴下等ガ此一塊ノ金ヲ購ナハル
ニ於テ盡ク同意ナルヤ否ヤヲ推テスルニ得ヌ此一塊ハ一分
ノ光彩ヲ帶テルノミナラス確ニ金色ヲ有スルハ余ヲ保ス
所ナリ

ヅク井ツキ曰ク グルーム氏 余ハ一
ニシト欲ス足下ハ此價ニテ之ヲ鬻カント欲スルヤ

○グルーム曰ク 若シ貴下等ガ之ヲ厭ハズンハ余ハ此一塊
ノ金属ノ來歴ヲ陳述シ一シ諸數週前余ハ一個ノ二ルドル
金貨ノ余カ知人ナル金細工師ノ許ニ持参シテ之ヲ熔解セシメ
而テ成レキ

去ヤレ上ニテハ是レ唯一片ノ金塊ノミ
シテ是レ

ラス然レ 今此一塊ヲ前キノ貨幣タリ 片ノ買價

○ハルフツ 金塊買入人ナラハ忽チ之ヲ足下ヨ

求スシ而テ彼レハ貨幣タリシ片ノ價ヨリ二分乃至三分ヲ
減スヘキノミ

○グルーム曰ク 足下言ノ如ク幾分ノ價ヲ減シテ購

トテハシモノ數人アリキ然ルニ余ガ二十ドルヲ金貨
トシテ如キ形跡ニ伸ヘシノタルモハ他ニ

ト地金ニナセシ上ヲ試ミンカ為メナリ然リト雖モ余實
ニ所ノ金塊買入人ハ貴下ノ言如キ價ニテハ之ヲ購ワラ

○ハルステッド曰ク 恐クハ足下ハ未タ當ナル金貨買入
人ニ試ミナシナランハ之ヲ

貨幣ノ買入ハオシテ 質ヲ

其一塊

ナルヘシ

○グルーム曰ク 余ハ紙幣ニテ一十五ールヲ四十セントノ

價アル此ノ一塊ノ金屬ヲ鬻ガント欲シ買手ヲ搜索セシ次第

簡短ニ貴下等ニ告ゲン貴下等之ヲ聞知セバ必ス貨幣 銅

一塊ヲ其既ニ鑄造セシ貨幣ノ法價ト殆ニ一ノ價 鬻

カニルハ實ニ容易ナラザルノ業ナルヲ知ラン余ハ

此一塊ヲ「ウォールス」リート街及ヒ「ブロード」ウエイ街ノ

ニアル金銀地金及ヒ國貨幣買入人ノ店ニ持込シテ鬻

ト申レ同店ノ勘定ハ日耳曼或ハ歐斯多利國ノ貨幣トモ思

ホシキニナリ 巨額ヲ勘査シ居タリシガ甚ハ驚キ

体ニ 月返直ニ決答シテ曰 店ニテハ從

リ購ヒシユナケレハ「ウエー」街ニ營業 分析ニ持

八

ト此時余益々之ヲ直ニ賣ラント欲ルノ念ニ燃

シ且ツ「ウエー」街ニ於テ彼ノ人々

相談セシニ 購ナハシヲ拒メリ而シテ余ハ最後

非一ニルラルニテ買 賜ヘト只管求メタリ然レニ到底ニ

購求セシメントノ企テ達シ能ハザル程強キ語部ニ

タリ因テ余ハ「ウォール」トリートラ出テ「ブロード」ウエイ

利國ニテノ間ニアル外國貨幣及ヒ金銀地金ヲ取扱フ所

ナリ到リ此ノ一塊ヲ鬻カンヲ試ミリ而シテ店ヲ出

ノ際益々一「ドル」ニテ之ヲ捨賣ニセント云ヘ

此ノ不幸ナル一塊ノ金屬ノ持主トナランカ為メニ僅ニ一「ドル

ヲ」ヲモ拖テ購求セント欲スルノナクハ是ニ於テ余ハ最

早此ノ事ノ為メニ貴重ノ光陰ニ徒ラニ消費セラルハ格別ニ事

ニラザルシト思ヒ素ヨ 等ノ店 於

事

續ハ異同アリクレハ局ニ至

ハ各同一シ

一「ドルラル」ノ價ニテモ之ヲ購ハシテ拒ミ而シテ之ヲ分テ下ニ持参スルヲ以テ上策ナラント余 懇諭シタリキ

○ハルトステッド曰ク 然ラハ足下ハ之ヲ分析所ニ持参セシメ持参セシナラハ其結局如何アリシヤ余ハ分析者ガ果シテ之ヲ容易ニ告ケ而シテ相當ノ價ヲ以テ之ヲ購ハシト述ヘタルヲ以テト思惟ス

○グルーイハ曰ク 余ハ之ヲ許多ノ分析所ニ持参シタリ及初ニ郵便局ノ側ニ營業セル有名ノ分析所ニ持参シ之ヲ以テランヤ之ミナルニ之ヲ量リ 試験分析セシ上ニ余ニ問テ曰ク此一塊ハ元來何ノルヲ承知スルヤ否ヤト余直ニ答テ之ヲ知田之ヲ好ニスト云 然ル處彼ノ人ハ之ヲ購ハント云 又ハ分析

四九

キ同様ノキ續ニテ交換ヲ乞タルニ紙幣九ドルノ六ナセントヲ拂ハシ 云ヒ又他テ分析所ニテハ紙幣十一ラ與ニシト云 曰ク此一塊ハ十一ドルラル以上ノ價ハ有セサルベシト

○リチャルドソン曰ク 儲足下ハ此經驗ヨリ何等ノ事ヲ心得セシヤ

○タルム曰ク 余ハ是ニ由テ曾テ屢々開陳セシ金銀銅分ヲ以テ之レニ極印ヲ押シ國內通用貨幣タルノ性質ヲ與ヘ政府ヨリ其旨ヲ公布スルハ何品ニテモ貨幣ノ用ヲ為サントハ統ノ妄想ナラサルヲ發見証明セ 若シ萬國ニ於テ法律ヲ以テ極印セザル金ヲ法貨トナスコトニ定メハ其目場ハ必ス今日金市場ニ於テ極印アル金貨ノ半價ニ過キサルヘシ

○ソートウチキ曰ク 然ルニ氏ハ余ハ貴

ステノト氏、最早爰ニ、リテハ、

閉ツル、外道ニ

ト思ヘリ而シテ、グルーム氏ガ此最後ノ實際ニ付キテノ説ヲ以テスレバ、氏ガ論旨ノ益々確實ナラハ、証ナルニ足ルベシト余ハ信ス

○リチャルドソン曰ク、余ハ氏ノ論旨ヲ満足トス余ハ、自カラ一分敗ヲ取リシヲ知ル余ハ再ヒ氏ノ説ニ背クナカルベシ而シテ余ハ余カ此貨幣論ノ為メ消過セシ光陰ハ實ニ惜ムニ足ラザルト為スノミナラニ其世ニ裨益スル所亦甚鮮少ナザルベシト考定ス

○ハルステット曰ク、余ハ「グルー」氏ガ今我輩ニ話シ聞カセラレシ外ニ其ニ一、需カシカ為メニ尚ホ十分ニ力ヲ盡サレシカラ聞知センコトヲ要ス

グルーム曰ク、余ハ其事ニ付キ尚ホ此上ニモ數言ヲ費セ

ニハ格別ニ緊要ナリト覺ヘサレハ尚ホ一二事ヲ舉ゲシ諸

カ此ノ一塊ノ金ヲ販賣セシコトヲ試ミタル日ノ晩ニ市ノ

マラサルヲ得サニ用事アリ故ニ晩食ヲ喫セント欲シ、

裝置ヲナシタル一割ノ店ニ入り静カニ勘定方ノ前ニ至テ余ハ

晩食ヲ喫セント欲ス足下ハ此金塊ヲ領收スヘキヤ、先シ領收セ

ハ何程ノ代價ニテ領收ナル乎ト云ヒシニ此勘定方ハ驚タル

体ニテ、暗ヲ定メテ余カ顔ヲ熟視セリ故ニ余言フ何故ニ驚クヤ

是レ金塊ナリ然ルニ彼ノモノ答ヘテ、吾ハ其金塊ヲ要セス、吾ニ

テ領收スルモ用ユル所ナシト言ヘリ余又余ハ於人ナレハ當

下ノ勝手ヲ知ラス如何セハ可カラント問ヒシカハ彼ノモノ答

ヘテ曰ク、今日直クト拂金ニモ及ガレハ何物ニテモ貴下ノ欲

スル所ノモノヲ命ジ喫セシレ後日再ヒ此邊ニ停デノ折、拂金

ヲナサレヨ、吾ハ到底斯ノ如キモノヲ領收スルヲ欲ス

ト而此他談判スルヲ須臾ニシテ余ハ其戲言ナリシヲ述
余カ欲スル所ノモノヲ食シ終リテ勘定ヲ拂ヒ此店ヲ立オリタ
リ而「オツプトウシ」マテノ氣車 駕セリ車中衆合ノ客唯一人
ノミナリシカ故ニ余ハ車人ニ對シ戲レニ言テ曰ク「余レ若シ此
ノ一塊ノ外ニ一片ノ貨幣ヲモ所持セサルニ當リテハ足下ハ如
何ニ余ヲ處セントスルヤ」ト車人先ツ余カ顔ヲ熟視シ而シテ後
テ此ノ一塊ヲ見須臾ニシテ曰ク「貴下若シ他ニ一片ノ貨^幣ヲ有
セサルニ於テハ吾ハ之ヲ領收シ得ヘシト思フ俟シナリテ吾
ハ一錢ニテモ過剩釣錢ヲ拂戻サ、ルベシ」ト因テ余車人ニ言フ
「足下ハ「オツプトウシ」マテノ貨料文ケニハ不足ナリト云フノ意
ノ如シ「オツプトウシ」マテノ貨料ハ總カニ六「セント」ナルニ「ア
ラスヤ」ト車人答ヘテ曰ク「然レ貴下ノ言ノ如シ吾ハ其一^{セント}以
テ六「セント」以上ノ價アルモノトナサ、ルナリト而テ余到底彼

2

ノ車人ヲシテ余カ歸路ニ於テ同車ニ駕シ得ヘキ所ノ六「セント」
ガモ拂戻サシムルヲ談判ヲ遂クルヲ得ザリシ
○リテヤルドソン曰ク「ハルスヲツト」氏ヨ如何ン貴下ハ猶ホ
此事ニ付キテ疑問セ、トスル所アルヤ
○ハルスヲツト曰ク「否余ハ已ニ之ヲ盡セリ然リト雖モ未ダ
以テ理會得心スルノ場合ニ至ラス余ハ金ヲ以テ最上ノ通用貨
幣ヲリト信ス若シ金ニシテ最上ノ通用貨幣タラスンハ今日ニ
至ラザルノ前已ニ之ヲ棄テクランノミ
○グルーム曰ク「ハルスヲツト」氏ヨ貴下ノ説ノ如キハ彼ノ「
ルリオニス」ト主張スル所ノ人ヲガ常ニ主張スル所ノ論旨ナリ
然リト雖モ斯ノ如キハ一論旨ト名ツクニキ程ノ價ナシ是レ只
愚昧固陋ノ説ニシテ真正ノ道理ニ適ハザルナリ
○ソトツウサツキ曰ク「諸君ヨ余ハ思フ最早ニ我輩ノ議論

ノ局ヲ結ベリト余一人ハ自今以迄持者ノ所好ニ任セ定メ其
積證書ト相互交換セラル所ノ國內通用紙幣説ノ是ナルコトヲ
世ニ向テ主張スヘシ然リ而メ一旦此法ヲ實際ニ施スニ當リテ
ハ我輩カ「グルーム」氏ノ説ヲ聞キタルガ如ク為メニ我合衆國人
民ニ利益ヲ與フルモノ得テ測ルヘカラサラン

○リチャルドソン曰ク余ハ此ノ會ヲ此ニ止メス向來トテモ
毎週期シテ相ヒ集會シ吾カ合衆國ノ為メニ有益事即チ海關稅
則國產稅此他ノ諸稅ノ件ニ付キ不絶論議センコトヲ希望ス

○グルーム曰ク貴下ノ言ノ如クセハ極メテ吾カ合衆國人民
ヲ利益スル所或ハ少カラサルヘシ然リト雖モ如何セン余ハ
現今ノ所ニテハ為メニ貴ヤスベキ時間ヲ有セス尤モ二三箇月
ノ後ニ至ラハ貴下ノ言ニ同スルノ時間ヲ有スルニ至ル
時ニ至ラハ猶豫ナク貴下ニ一報ヲ寄スヘシ

○リチャルドソン曰ク余ハ切ニ請フ速カニ復タニ足下ト會
談スルノ一報ヲ領收センコトヲ

○ソトウ井ツキ曰ク貴下等ガ是等ノ問題ヲ議論センカ為
メニ會場ヲ開クノ日余幸ニ當府下ニ滞在セハ貴下等ノ末ニ加
ハラシコトヲ希フナリ

